

GLOBAL EDGE

[グローバルエッジ]

SOCIAL COMMUNITY MAGAZINE
2025 WINTER NO.80

GLOBAL EDGE

NO.80 2025 WINTER

J-POWER

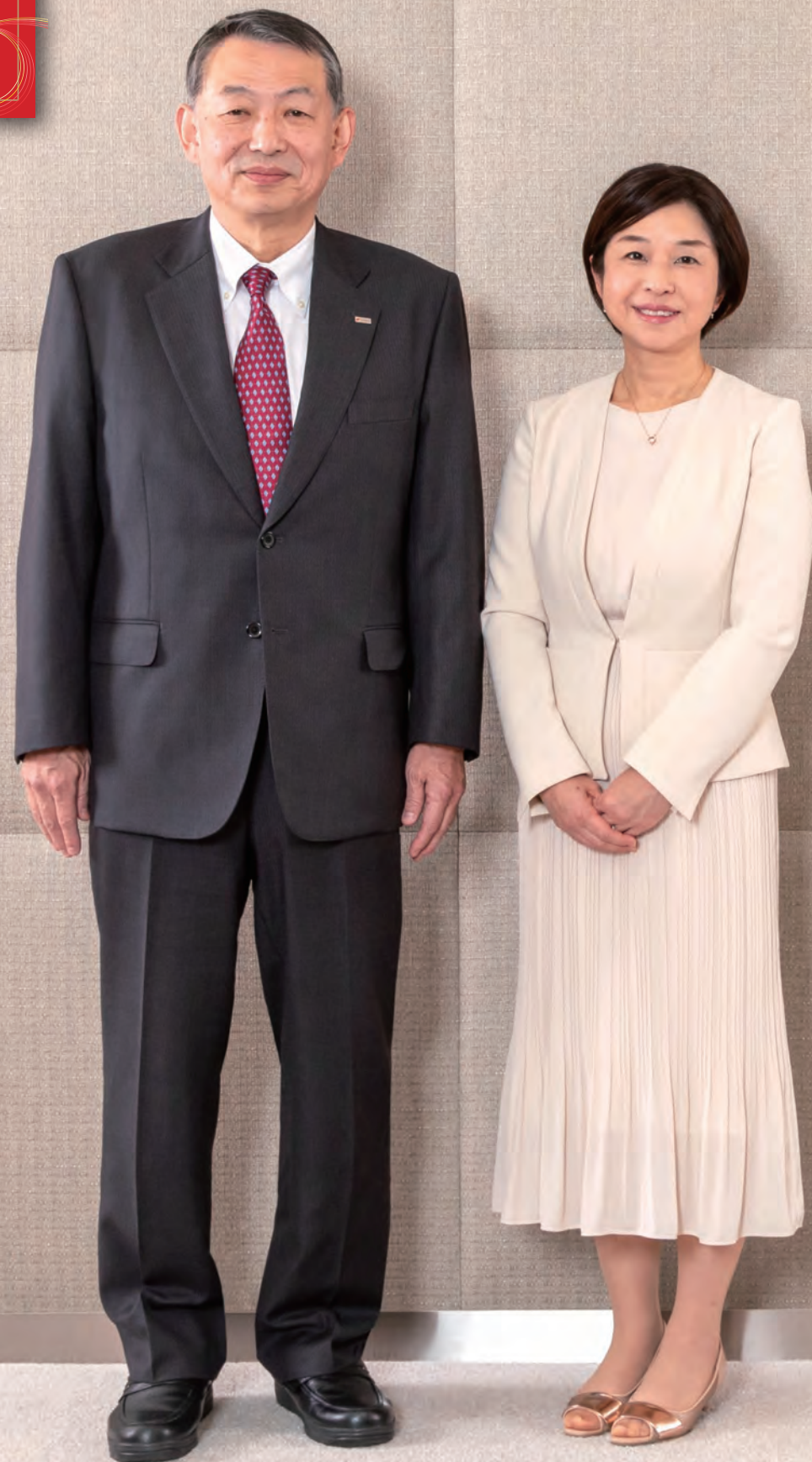
新春
対談

前を向いて歩み続ける
「**花**咲くみち」へ未来をつくる

特集

持続**可**能性と向き合う

HOME 宮城県大崎市
of J-POWER



前を向いて歩み続ける 「花咲くみち」へ 未来をつくる

J-POWER社長

菅野 等

小説家

藤岡 陽子

小説家として看護師として、人々の行き先にあかりを灯し、
頑張る人、頑張りがなくても足踏みする人に勇気を届け続ける藤岡陽子さん。
かつての新聞記者が世界の現実を知り、看護の力を得ながら歩んだ道の先に
誰かの希望の光となる物語を紡ぎ続ける使命が待っていた。
本誌「HOME of J-POWER」の筆者が贈る応援歌に耳を傾ける。

今できることは今やろう 全力で夢を追いかけた日々

菅野 藤岡さんには本誌「グローバルエッジ」の「HOME of J-POWER」で連載をお願いして、今年で11年目になりますね。毎号、ご協力ありがとうございます。

藤岡 こちらこそ感謝しています。いろいろな発電所や関連施設を見せていただき、社員の方や地域の方々とのたくさんのお会いがありました。

菅野 今号掲載の鬼首地熱発電所（宮城県）（P・30から掲載しています）で実に31カ所、全国に散らばる当社の拠点や出資会社を取材してくださいました。私も2023年の社長就任後、各地の現場を訪ねて回っているのですが、まだ回り切れていません。藤岡さんの訪問数には目を見張ります。

藤岡 実はここに来る前、自分の書いた記事を全部読み返してみたのですが、小説家人生に影響を与える位置にあるものだと、感慨深いものがありました。2014年にこのお仕事をお受けした時、私は小説家としてデビューして5年目。子育ての真っ最中で、看護師の仕事もあり、小説も書いてという生活に一生懸命でした。10年間、この連載

いに広い世界に飛び出して、見たことのないものを見て、今までとは違う自分になってみたいと思いました。

菅野 『深夜特急』を読んだらそうなりますよね。バックパックを背負って一人、放浪の旅に出る。私も憧れました。タンザニアといえば、文化人類学者の小川さやかさんが書いた『その日暮らし』の人類学』を何年前かに読みました。小川さんがタンザニアの街で古着の行商をしながら体験した、私たちが考える資本主義とは違った価値観で動く経済や生活が綴られていて、とても新鮮でした。

藤岡 まさに、当時の私には想像を超えた世界でした。電気の普及率はとても低く、突然停電したり水道管が破裂したりするなど、インフラ整備が発展途上で、日が落ちれば何もできなくなり寝る生活。平均寿命も当時は低く、病気などで亡くなる方も大勢いて、「死」がすぐ近くにある。私自身も2回マラリアにかかって生死の境に立たされ、大変な思いをしました。

菅野 それは大変なご経験をなさいましたね。帰国後に看護学校に通われたのは、やはりそうした生活で生命と向きあったことがきっかけですか。

藤岡 そうですね。もしも自分が医師



Fujioka Yoko
新春対談
Kanno Hitoshi



藤岡 陽子（ふじおか・ようこ）

1971年、京都府生まれ。同志社大学文学部卒。報知新聞社にスポーツ記者として勤務した後、タンザニア・ダルエスサラーム大学に留学。帰国後、文学賞への投稿を続ける。その後、慈恵看護専門学校で看護師資格を取得。結婚・出産を経て2006年、宮本輝氏が選考委員を務める第40回北日本文学賞で『結い言』が選奨受賞。2009年『いつまでも白い羽根』で小説家に。2021年『メイド・イン京都』で第9回京都本大賞、2023年『リラの花咲くけものみち』で第7回未来屋小説大賞、2024年に同作で第45回吉川英治文学新人賞を受賞。最新刊は『森にあかりが灯るとき』。ほかに『手のひらの音符』、『満天のゴール』、『空にピース』などがある。本誌では38号（2014年7月発行）より「HOME of J-POWER」を執筆。京都在住で看護師の仕事も継続中。

とともに家族や自分の歩みがあったように感じます。

菅野 藤岡さんは本当にいろいろな経験をされていますよね。スポーツ新聞の記者に始まり、タンザニア留学を挟んで、今度は看護師の資格を取られて、それから小説家に。たくさん顔をもちでいらつしやる。

藤岡 紆余曲折だらけですね（笑）。もともと文章を書くのは好きでした。小学生の時はいつも図書館で本を読んでいた、中学・高校では運動部に入りましたが、高校の国語の授業で初めて書いた小説がクラスで1位に選ばれたりして、小説を書くのは楽しいなと思いました。ですから、大学も文学部の国文学科に進みましたし、文章を書く仕事をしたくて新聞記者になりました。ただ、新聞記事の書き方には一定の型があつて、自分の色を出すようなものではないですね。これは私の求めている世界とは違うと思い始めて。

菅野 それで記者を辞めて、小説家になる道を選ばれた。でも、どうしてそこでタンザニアに行かれたのですか。

藤岡 沢木耕太郎さんの『深夜特急』に感化されて。小説家になろうにも、私には題材にする引き出しが少なかつたのです。ここはまず、沢木さんみた

や看護師だったら救えたかもしれないのと思う場面がたくさんあり、医師免許を取った探検家の関野吉晴さんもそんな思いだったのかと、『グレートジャーニー探検記』を読みながら背中を押された感じがありました。

菅野 でも同時に、小説家になる夢も諦めずに追いかけていたのですね。

藤岡 帰国してすぐに小説を書き始めたのですが、新人賞でも取らないとそう簡単にはデビューできません。アルバイトをしながら応募を続けましたが、うまくいなくて。ちゃんと自立しなければという思いもあつて、看護師免許を取ろうと決めました。

菅野 それが30歳の時ですか。ものすごいエネルギーですね。そのような決断を普通はなかなかできません。

藤岡 もともと猪突猛進タイプなのですが、タンザニアでの生活を経験して、生きることに食欲になったのかもしれません。今できることは今すぐ、100%の力でやろうと思うようになりました。

時を味方につけて生きる 努力は必ず報われるから

菅野 一番好きな小説家は宮本輝さんだそうですね。晴れて小説家になる幸

運をつかんだのも、宮本さんとの出会いが関係していると聞きました。

藤岡 そうなんです。高校生の時に読んだ『青が散る』に衝撃を受けました。大学生の主人公の4年間を綴った物語ですが、そこに描かれた「人が普通に生きること」の尊さにどんどん引き込まれて、涙するほど感動してしまいました。その尊敬する宮本さんが北日本文学賞の審査委員を務めていると知り、受賞したら会えるのではと、短編小説を書いて応募したら本当に選奨に入ることができました。それが34歳の時。実は看護学校時代に結婚して出産し、勉強も大変だったので、その間、小説を書く余裕はまったくなく、4年ぶりに書いた作品だったのです。

菅野 それだけのブランクがありながら実力を認められたということは、その4年間の経験が糧となつてご自身の中で熟成したのかもしれないですね。

藤岡 うれしいお言葉です。確かに、以前はどれだけ応募しても駄目だったのに、看護師になつてから書いたものは、この選奨をいただいた『結い言』をはじめ、どれも最終選考まで残るようになりました。子育てや勉強に追われながら、「私は何も生み出していない」と悶々としていたその時間が、実は自

読んでいます。1980年第1回の田中光二さんに始まり、第2回の栗本薫さん、第4回北方謙三さん、最近では『八本目の槍』の今村翔吾さんもそうです。そういう賞を、弊社の広報誌でお世話になつている藤岡さんがお取りになった。とても誇らしいと思います。テレビドラマ化もされて、2月から放映されるのですよね。

藤岡 ありがとうございます。北海道を舞台に、獣医学生たちが奮闘しながら成長していく物語です。

菅野 主人公の女子学生が可憐ですね。試練を乗り越え、だんだんとたくましくなっていく。酪農学園大学に進学された藤岡さんのお嬢様がモデルとか。

藤岡 はい。長女が獣医学類に入った時にキャンパスを訪ねて、北海道の自然の豊かさに圧倒され、この大地のエネルギーを全身に受けて、自分に自信のなかった少女が立派に育っていく過程を描きたいと思いました。娘の話を聞き、取材を進めていくうち、時には命の選別を迫られることもある獣医師の苦悩を知り、その先に人間の暮らしがあることの意味を考えさせられました。ただ動物が好きなだけでは続けない厳しい世界です。

菅野 生きることにおいては人間も動

Fujioka Yoko
新春対談
Kanno Hitoshi



右上：本誌で2014年から連載が続く「HOME of J-POWER」。沖縄県の石川石炭火力発電所に始まり、今号までに31カ所の発電所・関連設備や出資会社を取材訪問（P.8参照）。

右下：新型コロナウイルス感染拡大により発電所などの取材ができない期間、毎月書き下ろしの短編小説を寄稿（63号～70号）。

上：左から第45回吉川英治文学新人賞受賞作の『リラの花咲くけものみち』、最新刊の『森にありがとうが灯るとき』、第9回京都本大賞受賞作の『メイド・イン京都』。『リラの花咲くけものみち』はNHK総合の土曜ドラマで放映予定（2025年2月1日から毎週土曜22時）。



分を成長させていたのだと、後になってわかりました。人生は長いので、どこで成功するかわからない。今の自分にはできなくても、コツコツ努力をすればいつかきつと報われる、そう思えるようになりました。

菅野 「HOME of J-POWER」の連載を始めていただく前に、本誌のインタビューで「時を味方につけて生きる」ことの大切さを語っておられました。遅咲きでもいい、環境や周りのせいにせず、大きな幅で人生を考えたいと。勇気づけられる言葉です。確か大学のご同窓で、弁護士で大学教授でもある赤神諒さんの小説家デビューも、割と遅かったのですよね。

藤岡 赤神さんとは高校でも同級生です。とても優秀な方で、大学在学中に最年少で司法試験に合格されて。でも本当は小説家になりたくて、仕事を続けながらずっと小説を書いていたいとおっしゃっていました。

試練の先に未来がある
頑張る人を応援したい

菅野 藤岡さんは『リラの花咲くけものみち』で2024年の第45回吉川英治文学新人賞を受賞されました。私は昔からこの賞を取った小説家が好きで

物も同じであると、この作品を通じてその重みを改めて感じました。最新作の『森にありがとうが灯るとき』にもそこに触れる場面がありますね。「人間も動物も、命の最期に求めることは同じ」と、動物園の展示パネルを見た女性医師に語らせています。

藤岡 旭川の旭山動物園で、私自身が見て感銘を受けたパネルの言葉が下敷きになつています。命の大切さとは「その動物らしく生きること」と書かれていて、介護や終末医療のあり方にも通じるものがあると思いました。

菅野 この作品では介護の現場で働く人たちの厳しい現実が描かれていて、夢に破れた新人介護士や、信念を曲げずに疎まれる医師、遺族から訴えられた過去を持つ施設長たちが登場します。介護される側ではなく、介護・看護する側に光を当てたのはなぜですか。

藤岡 介護業界が抱える問題を正面から見据え、少しでも良い方向へと変えていきたい。そうでなければ、ここで働きたいと思う人がいなくなってしまう。そんな思いで書きました。それにはいろいろな立場から、立体的に介護を捉える必要があります。

菅野 それぞれの葛藤がある中で、人の成長があり、業界の変革もあるとい

うことです。ところで、藤岡さんが書かれる物語の多くは、最後に登場人物の後日譚のようなエピソードがあります。あれはやはり、こうあってほしいと願っているのですか。

藤岡 苦しいことを経て挫折感を味わった人たちが、それを乗り越えてどう生きるのか。その未来の姿を見せることができるのが小説だと思っています。それは私がスポーツ記者を辞めた理由にもつながるのですが、スポーツ新聞では多くの場合、活躍した人の話だけが掲載されます。でも、成功した人、活躍する人の裏側には、ひっそりと努力を続けるたくさんの方がいます。私はそうした光の当たらない、目に留まりにくい人たちの物語を書いて、応援したい。そのために小説家になりました。

地域の人々が教えてくれた 支え続けることの大切さ

菅野 先ほどの業界を変えるお話にも通じるかもしれませんが、藤岡さんの『メイド・イン京都』に登場する還暦近い百貨店のバイヤーが、主人公の若い女性にこんなことを言います。「百貨店の生き残りを懸けて自分にできることはすべてやっておきたい。その上

思っていました。あの8回の短編小説では、取材記事では書き切れなかった、そんな市井の物語を形にしています。

菅野 地域とともにどう生きるかというのは、その土地で事業を営む者にとっても大きなテーマです。特に私たち電力会社は、何十年という長い年月にわたって地域の恩恵を受けながら事業を続けさせていただきますから、いわばその土地の風景の一部となり、地域社会の一員となる自覚を持たなくてはなりません。そういう場所の多くが今、高齢化や過疎化の問題に直面して対策を探っている。これは私たち自身の課題でもあると考えています。

藤岡 地域の方々とお話をしてきて私を感じたのは、そこに電力設備があることで外から人が訪れたり、働き場所となったりすることへの期待感でした。社会とつながる接点というような感覚があるのではないのでしょうか。

菅野 地域共生の起点はそこにあるのかもしれませんが、Jパワーグループの社員を見てこられていかがですか。期待に応えられているのでしょうか。

藤岡 この10年間の取材の中で、多くの社員の方からお聞きした印象的な言葉があります。「電気を安定して供給することが自分たちの役割」だと。以

Fujioka Yoko
新春対談
Kanno Hitoshi



No.71 にかほ第二風力発電所
秋田県にかほ市

No.72 手取川第一発電所
石川県白山市

No.73 竹原火力発電所
広島県竹原市

No.74 南愛媛風力発電所
愛媛県宇和島市・愛南町

No.75 奥只見発電所
新潟県魚沼市・福島県檜枝岐村

No.76 関門連系線
福岡県北九州市・山口県下関市

No.77 大崎クールジェン株式会社
広島県大崎上島町

No.78 沼原発電所
栃木県那須塩原市

No.79 上ノ国第二風力発電所
北海道上ノ国町

No.80 鬼首地熱発電所
宮城県大崎市

※過去の記事は「GLOBAL EDGE」サイトで
閲覧可能



で次の世代に引き継ぎたい」。私は今63歳ですが、同世代としてその気持ちはものすごくよくわかります。ずんときに響くものがありました。

藤岡 世の中をつくってきた方々の言葉を若い世代にきちんとつないでいく。それも小説家の仕事だと思います。

菅野 だから、『リラの花咲くけものみち』にも大叔父と大叔母が登場して主人公を優しく見守るわけですね。あの東京の電力会社を定年退職したという大叔父はもしかすると……。

藤岡 そうなんです。連載の取材でお世話になった橘湾火力発電所（徳島県）の当時の所長さんをイメージして書きました。

菅野 そういうことでしたか。橘湾火力発電所は、コロナ禍で取材ができないう時期に本誌で連載してくださった短編小説の舞台としても取り上げていただきました。「ともしび食堂、本日閉店」（63号掲載）。発電所勤務の社員と地元の方との心温まる交流が印象的でした。

藤岡 本誌の取材で訪ねたいくつもの土地の景色や自然、人々の温もりと暮らしぶり、社員さんたちと交わした言葉の数々が私の中にずっと残っていて、この場所を守りながら生きている方々の人生をいつか小説にしてみたいと

前の私は、毎日電気が使えることを当たり前前のように感じていました。ですが、皆様にお会いしたことで、電気は人の手で生み出され、私たちの元に届いているのだと再認識することができました。私たちの暮らしを支えていてくださる皆様に、感謝の気持ちを伝えたい。地域の方々も、口には出さなくても同じ思いでいるはずですし、それも含めての期待感だと思います。

菅野 ありがとうございます。過分なお言葉に報いるためにも、私たちと地域がともに力を高め合い、長く関係が持続するようにしたいと思います。

藤岡 私たち小説家も同じです。どんな外に出て、自分の今の思いを伝えていかなければと思います。

菅野 これからの創作活動へ、温めておられるテーマがあるのですか。

藤岡 日本で初めて看護師になった人を主人公にして書きたいと思っています。その人の半生から勇気をもらええるような物語。自分には何もできないと感じている人に希望の光を与える、そんな小説を書き続けていきたいと思っています。

菅野 ぜひ読ませていただきます。本日はありがとうございます。

（2024年11月18日実施）

夜に映える岩出山伊達家の学問所

宮城県大崎市にある旧有備館および庭園は、伊達政宗公の四男を祖とする岩出山伊達家の二代目宗敏が17世紀に建てたと伝わる。その後、隠居所として使われるようになり、江戸末期嘉永3年（1850年）頃には十代目邦直が郷学（学問所）として使用、藩内の師弟たちに儒学をはじめとする学問や武芸を教えたという。学問所としての歴史も備えた優美な庭園が現代まで伝わり、毎年秋に期間限定でライトアップされている。

（P.30から、小説家・藤岡陽子さんによる宮城県大崎市の紀行文を掲載しています） 文／豊岡 昭彦

写真／竹本 りか Rika Takemoto

風景写真家。千葉県生まれ。2007年、写真家・高橋よしてる氏に師事し、その後独立。日本各地の風景を撮影し、その作品は多くの書籍、雑誌、旅行パンフレット、カレンダーなどに採用されている。埼玉県見沼田んぼ近くに在住。 <http://takemotorika.com/>

GLOBAL EDGE

新春対談

前を向いて歩み続ける 「花咲くみち」へ未来をつくる

藤岡 陽子 × 菅野 等 02

特集 持続可能性と向き合う

Global Vision 岸 光太郎 × 坂木 萌子
心のバリアフリーを浸透させる車いすラグビーの躍進 14

Opinion File 鈴木 宣弘
地域を起点に考える日本の「食料安全保障」 22

Opinion File 片岡 日出美
人と木とをつなぐ架け橋に 樹木医が描く未来 26

Focus On Scene 夜に映える岩出山伊達家の学問所 10

Global Headline 寺島 実郎
産業の現場力が試される技能五輪国際大会に光を 13

Home of J-POWER 藤岡 陽子
体を癒やし、心を潤す鳴子温泉郷の温もり
～宮城県大崎市と鬼首地熱発電所を訪ねて～ 30

Global J-POWER 世界とともに オーストラリア連邦 Vol.3
オーストラリアの再エネ促進に貢献 38

POWER PEOPLE
J-POWER送変電 本四連系線 40

Venus Talk 温泉エッセイスト 山崎 まゆみ 42

匠の新世紀 株式会社八柳 44

「音のソノリティ」を詠む 歌人 小島 なお
ぶくぶく茶 48

J-POWER NEWS 49

鳴子温泉にある日本こけし館の前に立つ巨大こけし像（宮城県大崎市）。

表紙イラスト：鯨江 光二

本文デザイン：田村 嘉章、中川 まり、渡辺 美岐

制作協力：Weber Shandwick（ウェバー・シャンドウィック）



年頭にあたり、2024年をふり返った時に大変残念なことがある。2024

年はパリで開催されたオリンピック・パラリンピックでの過去最多のメダル獲得（パラリンピックは過去2番目）をはじめ、メジャーリーグ大谷翔平選手を筆頭に若いアスリートたちの活躍にスポットライトが当たった。大変喜ばしいことであったが、9月にフランス・リヨンで開催された第47回技能五輪国際大会にて各部門で出場した若手技能者について、テレビや新聞などで同じように大きく取り上げられるような報道はされていなかった。

技能五輪国際大会は、参加各国における職業訓練の振興と技能水準の向上、青年技能者の国際交流、親善を図る目的で、1950年から原則2年に1度開催されている。「原則22歳以下」という年齢制限のある大会で、オリパラに参加するアスリートと同年代の若者たちが産業技術で競い合う。日本も1962年第11回大会から参加し、優秀な成績を収めてきた。

産業技術での競争という点、旋盤工や自動車塗装などがある浮かぶが、それらの競技ももちろんあるものの、今やサイバーセキュリティやホテルレセプション、洋菓子製造、看護／介護など、60近くの競技職種がある。つまり、産業のほぼすべての分野で技術を競いあうのだ。

昨年の第47回大会には60カ国・地域が参加。日本は産業機械、自動車板金、美容

／理容、車体塗装、再生可能エネルギーの5職種で金メダルを獲得、さらに銀メダル5個、銅メダル4個を獲得した。年齢制限を考えると、中学や高校の卒業後から修業を始めなければ到底メダルには到達できず、それは並大抵の努力ではないはずだ。こうした「現場力」が問われる分野に光が当たらないのは残念である。

いつの頃からか、日本では経済という

と株価と為替を中心とした報道になったが、経済にとって最も大切なことは現場力ではないか。今、日本経済の現場、特に製造業やサービス業の現場に光が当たらないことが日本経済の衰退を象徴しているように思えてならない。

天台宗の開祖最澄が言ったように「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」の精神で、技能五輪で頑張る若者たちにも光を当てるべきである。

折しも、2028年11月に行われる第49回大会が愛知県で開催されることが決定した。東京オリパラ、大阪万博と同様に、日本での開催が期待されていた大会である。

日本が通商国家として、またものづくり国家として生きていく上で重要となるのは人材である。そうであるならば、その産業の現場を支える若者たちに社会全体がもっと光を当てていくべきではないだろうか。

Global Headline

産業の現場力が試される 技能五輪国際大会に光を



寺島 実郎

てらしま・じつろう

一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長。1947年、北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了、三井物産株式会社入社。調査部、業務部を経て、ブルッキングス研究所（在ワシントンDC）に outward。その後、米国三井物産ワシントン事務所所長、三井物産戦略研究所所長、三井物産常務執行役員を歴任。主な著書に『21世紀未来図 日本再生の構想——全体知と時代認識』（2024年、岩波書店）、『ダビデの星を見つめて 体験的ユダヤ・ネットワーク論』（2022年、NHK出版）、『人間と宗教あるいは日本人の心の基軸』（2021年、岩波書店）など多数。メディア出演も多数。



TOKYO MXテレビ（地上波9ch）で毎月第3日曜日11：00～11：55に『寺島実郎の世界を知る力』を放送中です。（見逃し配信をご覧になりたい場合は、左記QRコードにアクセスしてください）

前ヘッドコーチの 思いを受け継ぎ 勝ちにこだわるチームへ

坂木 岸さんが車いすラグビー日本代表ヘッドコーチに就任されたのは2023年8月でした。ケビン・オアー前ヘッドコーチからのバトンを、どのような思いで受け取られたのでしょうか。

岸 実は2023年の春ごろから、ケビンの体調が芳しくなく、後任をどうすべきかの話が持ち上がっていました。でも、まさか私がヘッドコーチをやるとは思っていませんでしたので、オフアーを初めていただいた時、戸惑いや不安の気持ちのほうが強かったですね。

坂木 それでも、最終的には引き受けられた。

岸 周りから「やってみたらどうだ」と後押しされたこともあって、とりあえずまずはパリ2024パラリンピック競技大会（以下、パリ2024大会）までの1年間頑張ってみようと思いをくくりました。

坂木 岸さんにヘッドコーチを引き継いでほしいと思う方が、周囲にたくさんいらっしゃるということですね。

心のバリアフリーを 浸透させる 車いすラグビーの躍進

フリーアナウンサー

坂木 萌子

車いすラグビー日本代表ヘッドコーチ

岸 光太郎

スピーディな動き、激しいコンタクトプレーで観客を魅了する車いすラグビー。

日本代表チームを率いる岸光太郎ヘッドコーチは、年齢も性別も障がいの程度も異なる多様な選手をどのように束ね、どんな戦略で勝ちにこだわるチームへと変貌させたのか。

岸 その点について実際のところはわかりませんが（笑）。でも私は選手としてケビンの近くで長くプレーをしてきたので、今度はヘッドコーチとしてチームに貢献すべき時が来たのだと思いました。

坂木 岸ヘッドコーチによる新体制のもと練習がスタートしたわけですが、チームとして新たに取り組むべきこと、逆にケビンヘッドコーチの指導を継承していくべきこと、それぞれどのように分析されましたか。

岸 これまでケビンが進めてきた戦略については疑問を持つ要素がなかったもので、そこは踏襲しようと考えました。例えば「2ハード2ソフト」と呼ばれるディフェンス。選手4人のうち2人が相手のボールに対してプレッシャーをかけ、あとの2人はエリアを守り、ボールを出しにくい状況をつくるというものですが、こうしたディフェンスの強化は継続していきました。

そのうえで、これまで以上に勝ちにこだわるチームへと成長するためには、プレーの精度を高める必要があると考えました。例えば、車いす操作やボールのハンドリングといった基礎的な動きをあらためて見直すなど、精度にこだわったプレーを追



求するという意味です。

坂木 それは、選手として数々の大舞台を経験されてきた岸さんだからこそその戦略と言えるでしょうか。

岸 確かに、これまでの選手経験を通して、勝敗を分けるのはプレーの「細部」だという実感は持っていました。

さらにこれまで以上に気を配りたいと考えたのは、選手とのコミュニケーションの密度です。車いすラグビーの日本代表は男女混成のチームで、年齢は20代から40代にわたり、障がい程度も人によって大きく異なります。こうした多様なメンバーが集まれば、おのずと見えない壁が生まれる場合もあるため、コミュニケーションの重要性をより一層意識しました。

坂木 チームの中にはこれまで一緒にプレーしてきた仲間もいらつしやると思いますが、指導する際に、どうやって伝えようかと悩むことはありませんでしたか。

岸 むしろ当初は、躊躇せず端的に伝えすぎて怒られたことがありました。ケビンは素晴らしいヘッドコーチだったうえ、基本は英語でのコミュニケーションだったこともあり、選手と適度な距離感が保てていたのか

坂木 選手間のコミュニケーションも大切にされているのですね。

「普段通り」のプレーで 悲願の金メダルを獲得

坂木 岸さんは、日本代表チームを「金太郎飴のようなチーム」と表現されていましたね。

岸 伝えたい意味が上手く伝わらず、選手たちから「どういう意図なのか」とすごく怒られたんです（笑）。

坂木 そうでしたか。でも、どのようなメンバーの組み合わせでも勝負できる、という意味ですよね。

岸 そういう意味で言ったつもりです。通常はベストのラインアップ（選手の組み合わせ）、2番手以降のラインアップなどを想定しますが、その戦力にはどうしても差が出てしまいます。でも日本代表チームは、どのラインアップでも自分の「仕事を遂行できるマルチな選手ばかり。もちろん、試合に向けて、どんな組み合わせでも最大限の力を発揮できるような練習をこなしました。

坂木 パリ2024大会で印象的だったのは、やはり米国との決勝戦です。第1ピリオドで3点のリードを許しましたが、どんなお気持ちで



岸 光太郎(きし・こうたろう)
車いすラグビー日本代表ヘッドコーチ。
1971年、埼玉県生まれ。1995年、交通事故により頸椎を損傷し車いす生活に。リハビリセンターで車いすラグビーと出会い、1998年から競技を始める。パラリンピックは2012年のロンドン大会、2016年のリオデジャネイロ大会に出場、リオでは銅メダルを獲得。2018年の世界選手権では金メダル、2019年のワールドチャレンジでは銅メダルを獲得した。2023年8月に日本代表ヘッドコーチに就任。クラブチームAXEの現役選手としても活躍中。

「選手としての経験から 勝敗を分けるのはプレーの 『細部』だと感じていました。」

かもしれません。それが、選手と近い立場で、日本語で指示を出すヘッドコーチに代わったわけですから、選手たちが思い描いていたヘッドコーチ像とは大いにギャップがあったはずで

坂木 そのあたりは、どのように解消されたのですか。

岸 とにかく、対話を重視しました。心がけていたのは、私の思いを伝え

ること、それに対する選手の意見をしっかりと聞くこと。粘り強くコミュニケーションを重ねることが鍵になったと思います。

坂木 私は中学、高校とバスケットボール部のキャプテンを務めたことがあるのですが、選手同士では仲が良かったのに、キャプテンになった途端、何も言えなくなってしまうって結果、チームが弱くなってしまった

試合をご覧になっていたのでしょ。 **岸** 立ち上がりが悪くて大丈夫かなと心配しましたが、実際のところ、試合が始まればヘッドコーチができることはほとんどないのです。ヘッドコーチの仕事は、試合を迎えるまでの「準備」に尽きます。もちろん、選手交代の際に戦術を伝えることはありますが、試合中にコートの外から声をかけても届かないことが多い。

そういったこともあり、試合中はコートの中の4人で考えてプレーするよう伝えていきます。3点リードされましたが、必ず追いつけると選手たちを信じて試合を見守りました。

坂木 日本代表選手といえば、キャプテンの池透暢選手、エースの池崎大輔選手の、いわゆる「イケイケコンビ」がメディアでも話題でしたが、チーム最年少の橋本勝也選手の活躍

「最年少の若きエース 橋本勝也選手の活躍が 印象に残っています。」

も印象的でした。

岸 橋本選手は終始タフなプレーでチームを引っ張り、こちらの期待以上のプレーをしてくれ、決勝ではチーム最多の19トライを挙げました。前回の東京大会で満足のいくプレーができなかった分、その喜びはひとしおだったでしょう。決戦を戦い抜いて、本当にいい顔をしていましたね。

坂木 パリ2024大会を控えた記者会見で、岸さんは「目標はあえて言わない」とおっしゃっていました。その真意はどこにあったのでしょうか。

岸 これまで日本代表は、優勝を意識しすぎるという弱みがあると分析していました。パラリンピックでは、



坂木 萌子(さかき・もえこ)
フリーアナウンサー。1987年、高知県生まれ。中学・高校ではバスケットボール部に所属。早稲田大学商学部卒業後の2009年、さくらんぼテレビジョン入社。翌年フリーアナウンサーに転身し、主に日本テレビ系列各局の番組でキャスターとして活躍。現在はBS日テレ「森田健作アワー人生ケンサク窓」番組進行役、「コーポレートファイル」ナビゲーターなどを務める。

Global
Vision
Kishi Kotaro
Sakaki Moeko



2024年1月に千葉ポートアリーナで行われた2024 ジャパンパラ車いすラグビー競技大会での日本チーム。
日本、ドイツ、ブラジルが参加（写真提供＝日本車いすラグビー連盟）。©JWRF

坂本 岸さんご自身についてもお伺いしたいのですが、そもそも車いすラグビーとの出会いはいつ頃だったのでしょうか。

岸 私は、1995年、大学生の時に事故で受傷しました。当初リハビリテーションセンターに入っていたのですが、退所する際、体育の先生に体力づくりに適したスポーツがないか相談したのです。その先生が車いすラグビー連盟の役員をされていたこともあって、薦められたのが車いすラグビーでした。ちょうど、車いすラグビーがパラリンピックの種目になるかもしれないと言われてい

会場で体感してほしい 車いすラグビーの魅力

とを示すことができ、他の競技も含め、日本人がさらに活躍できる可能性を感じていただけたのではないのでしょうか。次は自分たちも、と奮起するきっかけになればうれしいです。

試合のための準備を 重視することで 意識改革につながったのですね。

た頃で、興味を持って試合を見に行っただのです。

埼玉県所沢市の国立障害者リハビリテーションセンターで開催された大会でしたが、車いす同士がぶつかり合う迫力に圧倒されました。普段使っている車いすとは全然違う競技用車いすの格好よさにも惹かれました。元々機械が好きだったので、これに乗ってみたいという思いが高まって、練習に参加するようになったのです。

坂本 実際にプレーするようになって、いかがでしたか。

岸 競技のおもしろさに一気に魅せられましたね。試合を通して全国各地に友人が増えたことも大きな収穫でした。いろいろな人に会えることが楽しくて、ここまで長く競技を続けてこれたのかもしれない。

坂本 競技生活はもうすぐ30年になりますね。あらためて、車いすラグビーの魅力はどんなところにあると



ヘッドコーチとしてキャプテンの池透暢選手とコミュニケーションを取る岸さん（写真提供＝日本車いすラグビー連盟）。©JWRF

Global
Vision
Kishi Kotaro
Sakaki Moeko

日本人が世界と 互角に戦えることを 選手が示してくれました。

で大切にしていたのはどのようなことでしょうか。

岸 プレーの部分では、先ほどもお話しした通り、細部にこだわる練習を積み重ね、メンタル面では試合に向けた準備を大切にしようと思えました。例えば、テーピングをすること、普段の基礎的な練習をこなすこと。すべてが本番につながる重要な準備です。目の前のことを一つひとつ大切にすることで、試合当日も「今日は勝つぞ」ではなく「いい準備をして試合に臨もう」という心持ちが生まれ、いつも通りのプレーにつながります。実際に、試合で



現役選手としてもプレーを続けている岸さん。写真は2018年の世界選手権（写真提供＝日本車いすラグビー連盟）。©JWRF

思われますか。

岸 やはり激しい接触プレーに多くの人が魅了されるのではないでしょう。さらに、戦略性があるところも大きな魅力です。車いすラグビーは障がい者の程度によって選手の持ち点が変わります。コートに出る4名の選手の合計点は8点と決まっているので、誰を投入するかによって、守備を手厚くした布陣、攻撃に特化した布陣などが生まれます。

坂木 頭脳戦の部分も多いですね。選手の持ち点が異なるということですが、岸さんご自身はローポインター（主に守備の選手）でいらつしやいますね。

岸 ええ。ローポインターは基本的にはトライすることはあまりなく、縁の下での力持ち的な存在です。相手ディフェンスの壁となってトライするための道をつくったり、相手のハイポインターの進路を塞ぎ、車いすから前方に突き出ているバンパーでブロックしたり、相手の動きを先読みして邪魔をする役割です。私は0・5点で持ち点が一番低いプレーヤーなので、3点の選手などを止めた時は非常にうれしいですね。

坂木 それは、観客としても大いに盛り上がる場面ですね。先ほど練習

の様子を拝見しましたが、ものすごい迫力ですね。タックルの音にも驚きました。

岸 そうでしょう。車いすがぶつかる音、タイヤがパンクする音、あとは、金属と金属がぶつかって焦げたような匂いがあることもありますよ。現場でしか体感できない迫力があります。

会場でしか
感じることはできない
迫力が試合にはあります。

が答えられないと喜ぶという……。
岸 息子さんと仲良くなれそうな気がします（笑）。つい人に言いたくなってしまうんですね。私も周囲から嫌がられているのかもしれない。
坂木 お休みの日は、そのように情報収集されることが多いのですか。
岸 ヘッドコーチは事務作業も多いので、そういった作業をまとめて片付けたり、試合のビデオを見たりもしています。その合間に、インターネットで息抜きをしています。往々にして、息抜きの時間が長くなってしまうのですか……。

障がいのある人の 光のような存在に

坂木 日本代表チームの活躍は、障がいのある方への理解を深める一助になるのではないかと感じますが、岸さんご自身は、車いすラグビーを通じて社会にどのようなことを伝えたいと思っていraftしやいますか。
岸 今回のパリ2024大会は、本当にたくさんの方に応援していただきました。障がいがあっても、スポーツを通して人を熱くすることができ、ことを知ってもらえたのではないのでしょうか。車いすラグビーが障がいのある人にとって日々を頑張るた



日本代表の活躍は
障がいのある方への
理解につながりますね。

めの目標となるような「光」のような存在になればうれしいです。

近頃はバリアフリー化が進み、以前と比べて車いすユーザーが外出しやすい環境が整ってきました。でも一方で、障がい者に対してどう接すればいいのか、戸惑う人が多いという印象はぬぐえません。ハードのバ

Global
Vision
Kishi Kotaro
Sakaki Moeko

ますから、ぜひ多くの方に、試合に足を運んでいただけたらと思います。

オフの息抜きは

インターネットで情報収集

坂木 ラグビー以外では、何をするのが好きですか。

岸 興味のあることについてインターネットで検索するのが楽しいですね。ニュースサイトや雑学サイトなど、時間を忘れて見てしまいます。

坂木 雑学といえば、6歳になる私の息子は雑学好きで、YouTubeで得た知識をクイズで出してくるので、6歳にしてはなかなか難しい問題だったりして、最近少々しんどく感じることもあります……。

岸 その話、興味があります（笑）。どんなクイズを？

坂木 先日は「学校の教室は左側に窓があると決まっているんだけど、なぜだと思う？」と聞かれました。

岸 それは、太陽の光の入りが関係していますか。

坂木 まさに、正解です。一般的に右利きの人が多いので、ノートを取る時に影にならないように、ということらしいです。こういう雑学を仕入れてはクイズを出してきて、私

も多いと思いますが、日本と比べてアクセシビリティの違いを感じますか。

岸 日本との違いは、海外では気さくに声をかけてくれる人が多いことでしょうか。例えば、スロープがない場所では、「手伝えることはない？」「車いすを担ぐよ」などと声をかけてくれる。最近では日本でも声をかけてもらう回数が増えましたが、もっと心のバリアフリーが進展すればいいと思います。

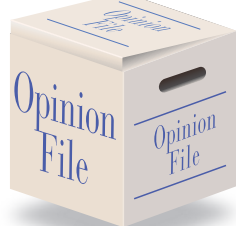
坂木 ヘッドコーチとして、またプレーヤーとしても活躍中の岸さんですが、次の目標をお聞かせください。

岸 どんな立場であっても、車いすラグビーを楽しむことを忘れずに、車いすラグビーの発展のためにできることがあれば、力を尽くしていきたいと考えています。

坂木 現役選手をいつまで続けたい、というお考えはありますか。

岸 いつまで、という期限は決めず、コートで動ける限りはプレーを続けたいと思っています。それほど、車いすラグビーが楽しくて仕方がないので。おそらくここが、自分にとって唯一無二の居場所なのでしょう。

（2024年10月23日実施）



地域を起点に考える 日本の「食料安全保障」



鈴木宣弘
東京大学大学院農学生命科学研究科
特任教授
一般財団法人食料安全保障推進財団
理事長

「令和の米騒動」から見た 日本の農政の弱点

2024年の夏、スーパーの店頭からいつせいに米が消えてなくなった。「令和の米騒動」などといわれて市中の不安が高まったが、9月になって新米が出回ると、ほどなくして米不足は沈静化した。しかし、価格は高止まったままだ。

今回の米不足の原因として、一般的には前年夏の猛暑による生産量の下振れや、インバウンド（※1）の拡大で外国人の消費量が増えたこと、また8月に発表された南海トラフ地震臨時情報（※2）を受けての買いだめなどが挙げられている。だが、本当にそれだけで、あれほどに深刻な事態になるものなのか。そもそも日本人の米離れは年々進み、米は余り気味だったはずではないか。

素朴な疑問に対し「根本的な原因は別にあ

る」として、「長期的に見て米不足は今後も続く」と警鐘を鳴らす人がいる。東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授で、食料安全保障推進財団理事長の鈴木宣弘さんだ。

「確かに夏場は例年、古米と新米の入れ替わりを前に需給が逼迫しやすい時期ではあります。ですが、猛暑の影響で一等米の比率は落ちたものの、2023年の作況指数（※3）は101で平年並み。インバウンドの急増もコロナ禍前に戻っただけで、想定外というほどの需要増ではないでしょう。

一方で、国民一人当たりの米消費量は2022年度で年間約51kgですが、これはピークだった1962年度の半分以下。人口減少の影響もあり、農林水産省では米需要は毎年約10万トンずつ減るとしています。

となると、なぜ米不足が起きたのか不思議ですよね。答えは、わずかな需給のズレが重大事を招くほど、米の生産量自体がギリギリ

要創出で出口を広げる方向へ。そこそが農家を助け、生産力を高め、食料自給率を改善する道だと鈴木さんは考えている。

厳しい食料自給 苦しい農業経営

農林水産省の食料需給表によると、日本の

のところまで低下しているからです」

その要因は減反政策にあると鈴木さんは指摘する。減反とは、米価を一定水準に保つために米の生産量を抑える仕組みをいう。これにより、1971年の本格導入からの半世紀で水田の作付面積は全体の約6割に減少。現在そこから年間約70万トンの米が収穫されているが、鈴木さんの見立てによれば、潜在生産力を最大活用すれば1300万トンは確保できるという。

「減反政策は2018年に廃止されたのですが、実質的にはまだ続いていて、毎年

の生産調整が行われています」

そうして供給力を絞り、需要との差を最小限に抑えてきた結果が、今回の米騒動につながっている。であれば、これは一過性ではなく、いつ再び起きても不思議はない。農水省

食料自給率はカロリーベース（※4）で約38%（2023年度）。米国約104%、フランス約121%、オーストラリア約233%（いずれも2021年度）など、諸外国と比べて極端に低いのが実情だ。鈴木さんの試算によれば、この数値はさらに低下することになる。

「日本は畜産用飼料の約8割を輸入に頼っていて、それも考慮に入れて算出されたのが自給率38%です。ならば、化学肥料原料のほぼ全量、野菜の種の約9割が輸入であることも考慮すべきでしょう。輸入肥料を使わない場合、収穫量はほぼ半減し、自給率も22%に低下。さらに、野菜に加えて主要穀物の種子までも海外依存が進み、種自給率が10%になると仮定すれば、全体の食料自給率は9.2%にまで低下します（図参照）。

さらに言えば、鶏卵の自給率は約97%とされていますが、ニワトリの餌となるトウモロコシはほぼ100%が輸入に頼り、ひな鳥もほとんどが外国産です。もしも何らかの理由で食料の輸入がストップしたら、どうなりますか？日本人はたちまち飢えてしまう。実際、ウクライナ戦争が始まり、世界有数の穀倉地帯であるウクライナからの穀物出荷が制限された途端、インドが国内の食べ物を守るため、輸出規制に乗り出しました。インドは米の輸出量で世界1位、小麦の生産量で世界2位の食料輸出大国です」

ここで鈴木さんはもっと怖い数字を出す。米国ラトガース大学などが試算した、核戦争

【特集】持続可能性と向き合う



中国では有事の際に備えて、14億人の国民が1年半は食べられるだけの食料を備蓄すべく、世界中から穀物を買集めているといいます。対して日本の備蓄量は、穀物全体でたったの1.5カ月しかもません」

米の生産量が上がれば、輸出用や国内外への援助物資として活用することもできる。要は供給調整による入口での縛りではなく、需

【日本の実質食料自給率の試算】資料：農林水産省による令和4年度食料自給率を基に鈴木宣弘が試算。

品目	総供給熱量 (kcal)	国産熱量 (kcal)	自給率 (%)	肥料輸入停止時の国産熱量 (収量半減)	収量半減時の自給率	種自給率 10%を考慮した 国産熱量**	飼料、肥料、 種を考慮した 実質自給率
米	476	474	99.6	237	49.8	23.7	5.0
小麦	299	47	15.7	23.5	7.9	2.4	0.8
いも類	41	26	63.4	13	31.7	13	31.7
でん粉	154	12	7.8	6	3.9	6	3.9
大豆	73	18	24.7	9	12.3	0.9	1.2
野菜	66	50	75.8	25	37.9	2.5	3.8
果実	66	20	30.3	10	15.2	10	15.2
畜産物*	406	68	16.7	68	16.7	68	16.7
魚介類	78	39	50.0	39	50.0	39	50.0
砂糖類***	185	63	34.1	31.5	17.0	9.5	5.1
油脂類	327	9	2.8	9	2.8	9	2.8
その他	86	25	29.1	25	29.1	25	29.1
合計***	2259	850	37.6	496	22.0	208.9	9.2

*飼料自給率を反映した数値。

**野菜の種の自給率10%が米・麦・大豆にも現実になったと仮定。

***でん粉の種の自給率が約3割であることも考慮した。しない場合の実質自給率は、10.2%。

※4 カロリーベース

食料からの摂取カロリー（熱量）をもとに国産品が占める割合を計算すること。生産額ベースの場合、日本の食料自給率は約63%。

※3 作況指数

10a当たりの平年収穫量を100として、その年の収穫量を示す指数。

※2 南海トラフ地震臨時情報

南海トラフ沿いで異常な現象を観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報。

※1 インバウンド

英語（inbound）で「内に向かう」ことを表し、日本の観光業界では訪日旅行を指す。アウトバウンド（outbound）は海外旅行。



鈴木さんは日本各地で開催される講演会に登壇している。

情報交換をする場の
くるかを話し合い、
自給循環圏をどうつ
びつきを強め、食料
生産者と消費者の結
生産者と消費者の結
びつきを強め、食料
自給循環圏をどうつ
くるかを話し合い、
情報交換をする場の

待っています」
い流れができる時期
も広げていけば、い
間て連携する仕組み
合う、あるいは地域
都市部と産地が支え

千葉県いすみ市では市長が音頭を取り、国産米価を大幅に上回る1俵2万4000円で

メントはもう各地で始まっています」
の種からつくる循環型食料自給圏が成り立つ
のではないのでしょうか。事実、そのムーブメ

安全で、いざという時に食べ物に困らないための備えにもなると、鈴木さんは言う。
「日本の食料自給率が低いのは、輸入が多いからです。そうした政策をすぐに変えることは難しくても、国民が行動を変え、地域から改革のうねりを起こすことはできるはず。例えば、在来種から栽培した食物を地元で消費して循環させる。学校給食をその核として、化学肥料・農薬を排した作物を自治体がい、公共施設や福祉施設でも進んで使う。産直マルシェのような取り組みも合わせれば、地域の種からつくる循環型食料自給圏が成り立つのではないのでしょうか。事実、そのムーブメントはもう各地で始まっています」

有機米を買い取ることでも農家を支援。数年かけて、市内すべての小中学校で100%有機米の給食を実現させた。いすみ市は2024年、子育て環境などが評価され、「住みたい田舎（※7）」の首都圏エリア第1位に選ばれている。

茨城県常陸大宮市でも、モデル地区を中心に有機栽培を促進。オーガニック学校給食の実現を機に、有機農産物の生産から消費までを地域全体で回す体制に向け、2023年にオーガニックビレッジ（※8）宣言を発信した。「大都市でも取り組みは可能です。東京都世田谷区では有機米給食を推進すべく、全国の米産地に協力を呼びかけました。大阪府泉大津市も農山村地域と連携し、有機米や特別栽培米を直接購入して給食に提供しています。」

提供である。それを主目的に2022年、一般財団法人食料安全保障推進財団を設立。全国各地でセミナーなどを精力的に展開中だ。同時に、超党派の議員立法による「食料安全保障推進法（仮称）」の成立に向けた活動も進めている。予期せぬ事態に必要な食料は国内生産で供給できるよう、特別会計で数兆円規模の食料安全保障予算を組み、その枠内で農家支援も実行する仕組みである。

「それには現在の農林水産予算2兆円に加えて3兆円が必要という試算ですが、有事の際に国民の命を守ることを考えれば、必要な予算だと考えています。食と農の保全こそが、最大の国防策であるはずですから」

食は命の源である。その食料にいつでも国民がアクセスできる環境を整えること。それが食料安全保障の第一歩だと、鈴木さんは強調する。そしてその実現には、エネルギーを地域で循環させるシステムの構築も不可欠だと考えている。食料とエネルギーの安定供給は、人々の暮らしを支える両輪なのだから。

取材・文／松岡一郎（エスクリプト） 写真／吉田敬

すずきのぶひろ

東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授。一般財団法人食料安全保障推進財団理事長。1958年、三重県生まれ。1982年、東京大学農学部卒業後、農林水産省に入省。その後学界へ転じ、1998年、九州大学農学部助教授。同大学院農学研究科教授を経て、2006年、東京大学教授、2024年より現職。1998年～2005年（夏期）コーネル大学客員教授。専門は農業経済学、国際貿易論。日本の食料安全保障問題の第一人者として、食料危機に関する情報発信、農林水産業の振興、地域の活性化に努める。近著に『世界で最初に飢えるのは日本 食の安全保障をどう守るか』（2022年、講談社）などがある。



「食と農の保全こそが、最大の国防策だ」と語る鈴木さん。

による犠牲者の数（※5）。それによると、核戦争で世界貿易が停止した場合、家畜用飼料の半数を食用に回したとしても、7200万～1億2500万人もの日本人が餓死するという。世界の餓死者に対するその割合は、実に3割にも及ぶことになる。

「そこまで考えなくても、仮に異常気象などで食料自給率200%超を誇る北海道からの出荷が止まった場合、自給率ゼロに近い東京や大阪がどんな打撃を受けるかは想像に難くないでしょう。そして、これほどまでに脆弱な日本の食料基盤に、農家の減少が追い打ち

をかけていることも忘れてはなりません」
農家の暮らし
向きが厳しいこ

とは、農林水産省の農業経営統計調査からも見えてくる。稲作農家が得ている年間所得は、2020年の場合で平均約18万円だったが、2022年にはコロナ禍による米消費の落ち込みもあり、平均1万円にまで低減した（図参照）。労働時間から割り出した時給は約10円だ。

資料：農林水産省「農業経営統計調査」

区分	水田作付 延べ面積 (a)	農業 従事者数 (人)	自営農業 労働時間 (時間)	経営主の 平均年齢 (歳)	農業経営収支(千円)		
					粗収益 (A)	経営費 (B)	所得 (A)-(B)
水田作経営全体	278.8	3.76	1,003	69.8	3,783	3,773	10
個人経営	221.1	3.51	889	69.8	3017	3047	▲ 30
法人経営	3,315	17.39	6,914	66.9	44,053	42,007	2,046

「コロナ禍は過ぎても世界情勢の悪化で肥料の価格は倍増し、燃料費も1.5倍の状況で、生産コストはどんどん上がっています。生産者米価（※6）は現在、1俵60kgで1万6000円前後ですが、一時は9000円ほどに下がりました。生産コストは約1万5000円です。すから、ほぼ赤字。農家への赤字補填の補助はなく、米の値段の決定権は小売店側が握っていて、農家が価格転嫁するのは容易ではありません」
今、稲作農家の経営主の平均年齢は69・8歳である。鈴木さんが全国の農村を見て回ると、あと5年で米づくりができなくなると悲嘆に暮れる地域が後を絶たないという。実情は酪農も同様で、生産調整で牛乳余りと牛乳不足が繰り返されるうち、廃業を余儀なくされた酪農家が少なくない。酪農経営の年間営業利益は平均約700万円の赤字となっている（2022年農業経営統計調査）。
「生産基盤はもうガタガタ。農家への支援なくして、日本の食料安全保障は成り立たないところまできています」

草の根の活動でつくる 循環型食料自給圏

では、日本の農家を守り、食の未来を明るくするために私たちにできることは何か。鈴木さんの答えは明瞭、「食生活を変えること」である。地元でとれたものを食べて生産者を支えることが、長い目で見て一番安く、一番

※8 オーガニックビレッジ

有機農業の生産から消費まで、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみで取り組みを進める市町村。農林水産省が創出を支援している。

※7 住みたい田舎

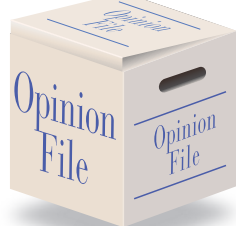
『田舎暮らしの本』（宝島社）が発表している「住みたい田舎ベストランキング」。いすみ市は2024年版のすべての部門で首都圏エリア第1位となった。

※6 生産者米価

政府が生産者から買入れる米の価格。

※5 核戦争による犠牲者の数

米国の研究チームが2022年8月に『ネイチャー・フード』誌で発表した論文による。
https://www.nature.com/articles/s43016-022-00573-0



人と木をつなぐ架け橋に 樹木医が描く未来



片岡 日出美
HARDWOOD株式会社
取締役

祖母と歩いた山々から 自然の偉大さを学ぶ

2024年9月18日の夕方、茨城県阿見町の鹿島神社に落雷があり、樹齢500年以上の御神木が焼ける火災が発生した。御神木の焼損は激しく、そのままにしては二次被害の危険がある。

町の文化財に指定され、地域のシンボルとして人々に愛されてきた御神木をなんとか守りたい。危険を除去しつつ、保全する方法はないだろうか。樹木医（※1）として、この御神木を、安全に守っていくために、いばらき樹木医会メンバーや研究者、行政担当者、地域の方々と協議し対策を講じてきた。

樹木医とは、その名の通り「木のお医者さん」。樹木の健康状態を診断し、治療にあたる専門家だ。片岡日出美さんは樹木医として、町の街路樹から山林の巨木まで様々な現場で

木と向き合っている。その原点は、祖母との小旅行だ。

片岡さんは神奈川県川崎市生まれ。都市部のマンションで幼少時代を過ごした。幼い頃から喘息を患い、アトピーや鼻炎にも悩まされた。そんな様子を見かねて、祖母は週末ごとに近くの山に連れ出してくれたという。

「神奈川の相模湖や丹沢、東京の御岳山や高尾山、時には栃木の那須まで足を延ばすこともありました。山を歩くのがとりわけ好きだったわけではありませんが、祖母と週末に出かけることが楽しかったのです。自分が住んでいるエリアとは明らかに空気が違い、山や森林が空気をきれいにしてくれているのだと実感したのも、この頃だったと思います」

もう一つ忘れられないのは、小学校4年生の時、熱帯地域の森林破壊（※2）について学んだことだ。地平線の果てまで木が切り尽くされ、その一部が日本にも輸入されているこ

と、プランテーションによる自然破壊や人権の問題……他国の資源を利用して自分たちが豊かになっていることに違和感を抱いた。

「子ども心に、これは絶対によくないことだと衝撃を受けたのを覚えています。これまで一貫して樹木と関わってきたのは、こうした幼い頃の体験があったからかもしれません」

大学では林学を専攻し、卒業後は大手林業会社へ。1年目から木材や建材の流通管理を担当した。当時まだ女性の総合職は少なく、片岡さんが配属された支店では初の女性総合職。先輩たちからは温かく、時には厳しく指導を受けながら、原木市場や港での輸入取引の現場などを飛び回った。グローバルな環境での仕事にやりがいを感じ、同期や先輩にも恵まれて充実した毎日を送っていたという。ただ、入社して3年が過ぎた頃、片岡さんの胸にある思いがよぎる。

「結婚を機に本社勤務となり、部署をまたい

で様々な先輩や上司の話を聞く機会が増えました。心が躍るようなダイナミックな仕事の話を聞く一方で、定年を迎えたら、この仕事から離れなくてはいいけないことに寂しさを感じたのです。定年は会社員の定めではありません

すが、人生をかけて関わってきた仕事を、いつか辞めなくてはいけないのだなと」

その後、長男を出産した片岡さんは、自分のキャリアと向き合って一つの結論を出した。「会社員という形に縛られず、この後もずっと働き続けていくためには、専門技術を身につけ、それを裏付ける資格を持つことが重要だと考えま

樹木医の研修仲間と 新たな挑戦へ

森さんとの出会いは、片岡さんがまだ最初の会社勤務していた頃。林業に携わる20代、30代の若者が集まる「若手林業ビジネスサミット」（※4）で林業の未来について語り合った仲間だった。その数年後、樹木医を目指す人のための研修で再会し、同じ年に2人とも見事合格したというわけだ。

「樹木医の試験は毎年1回あって、合格するのは100人くらい。合格者は2つのグループに分かれて2週間の研修を受けます。私は森と一緒にグループでした。その研修では朝から夕方まで座学や実習がみっちりあり、毎日試験を課されました。非常にハードに鍛えられる2週間ですが、その分、同期の結束も強くなるんです。のちに、一緒に会社を立ち上げたメンバーは、森を含め、皆この研修で苦楽をともにした仲間です」

樹木医になったばかりの頃、片岡さんはまだ樹木医専門会社で働いていたが、スタッフは女性が多く、樹木の治療や施工には一緒に作業してくれる仲間が必要だった。そんな時、研修で一緒になった森さんに声をかけた



外側だけ見ると元気そうに見える木でも、内部が腐っている場合がある。慎重に診断して治療方法を検討する。

大手林業会社を退職した片岡さんは、造園業を手がける樹木医専門会社に転職。代表である女性樹木医の背中を見ながら、マンションの樹木の設計や個人宅の庭木診断などに携わった。現場で実務

※4 若手林業ビジネスサミット

「林業で生きる」ことを目指す若者が集まり、開催地の林業の取り組みを見学し、林業について参加者同士で語り合う3日間のイベント。参加は30代まで。

※3 HARDWOOD

社名は広葉樹（hardwood）から。日本では広葉樹はあまり産業に活用されておらず、管理が行き届かずには荒廃する広葉樹の山は少なくない。広葉樹の課題と向き合う姿勢を社名に託している。

※2 熱帯地域の森林破壊

人口増加に伴い、食料確保のために森林を伐採して農地や牧草地に転用したことで熱帯林が減少。温暖化加速の原因ともなるため、熱帯林の保護は喫緊の課題となっている。

※1 樹木医

一般財団法人日本緑化センターが認定する資格。街路樹や庭木、天然記念物の樹木などの診断、治療、保全を行う。樹木医の認定者総数は3,272名（2023年12月現在）。



家庭では小学生のお子さん3人を育てるお母さん。

方やキャリアに関するセミナー活動、SNSによる情報発信など、自然環境への理解を深めるための活動、林業や造園業を啓蒙するための活動にも力を入れている。

木の声を聞き 豊かな未来をつくる

林業と造園業（※6）は、どちらも木を扱う仕事でありながらまったく異なる分野だ。森さんは林業から、片岡さんは造園業の視点から個々の課題にアプローチする。実はこうした2人が肩を並べて取り組む会社はそう多くないそうだ。

「森は林業出身なので、木を更新させながら利用していく意識が高い。私は木を守りたい

企業の森づくりや 地域再生にも貢献

HARDWOODが手がける事業は多岐にわたる。樹木医の科学的知見と精密機器を使っ



樹木医は木槌と銅棒、ルーペを用いるが、樹木診断機器も活用しながら木の状態を診断する。

た診断に基づいた治療、クレーンやレッカーを使わない特殊伐採（※5）、森林の調査、公園や植物園といった施設の設計なども事業範囲だ。

「街路樹が突然倒れて驚いたという話を聞きますが、多くの場合その兆候はあります。樹木医はその異変を適切に把握し処置ができるよう、日々研修を受けトレーニングしています。例えば以前、車がぶつかり樹皮がはがれてしまった街路樹を診断したことがあります。樹皮だけでなく内側の形成層もむけてしまつて、今後が憂慮される状況でした。というのも、木は数㎜の薄さしかない形成層から水分を吸い上げ、葉っぱで光合成した栄養分を運ぶ構造のため、形成層が傷つくと木の成長に

というスタンスで臨みます。そんな2人がタッグを組むことで、相乗効果が生まれたらと期待しているんです」

作業効率から考えれば切ったほうがいいと思える枝でも、例えばそこに住んでいる人が、その枝が1本あることで日陰を得られたり、木との距離が近く感じられたりする場合もある。そういうケースにおいて、科学的な根拠をもって、安全に木を残す判断をできるようにしたいという。

「その枝から得られる喜びや癒やしは、効率化、合理化という概念を凌駕するものだと思います。樹木医として、危険度の診断をするだけでなく、心身の健康への寄与、景観向上、騒音対策、エネルギーコストへの効果なども丁寧に説明を繰り返していく必要があると考えています」

でも、こうした仕事運びができるのは、森さんの林業の知見に基づいた柔軟な現場力があればこそ。一見、相反する立場に見える両者の思いが掛け合わされ、唯一無二の仕事を実現している。

今、人の生活と森林は遠くなりすぎてしまつた、と話す片岡さん。国土の3分の2を森林が占める日本（※7）で暮らしながら、私たちはその資源について知らないことが多い。

「知らないということは、未来に対する展望を描きにくいということ。それは大きな課題だと捉えています。私たち樹木医は、この樹種のこの状況であれば、例えば数年後はどの



2024年9月、落雷のため火災被害を受けた
鹿島神社（茨城県）の御神木。

深刻な影響を及ぼします。仮に木の内部に空洞ができれば、強度を保つことができず、幹が折れてしまう懸念も出てきます。こうなると、外側からはうかがい知れない内部も含め、木全体の状態を正しく診断し、適切な治療を施すことが必要になってくるのです」

HARDWOODはほかにも、企業の森づくり事業の支援を手がけることもある。日本郵船株式会社の「ゆうのもりプロジェクト」では、森づくりを行う地域の選定から整備計画の策定、現場での実地作業までを担っている。また、自治体からの依頼も多く、高知県梶原町では地域林政アドバイザーとして公園の再生事業を手がけている。さらに、子どもたちへの環境教育活動、樹木医としての働き



林業と森林の魅力を知ってもらおうと梶原町とともに企画した「森林フェスティバル」は、2024年で7回目を迎えた。

かたおかひでみ

1986年、神奈川県生まれ。筑波大学生物資源学類では日本林業の社会経済学を専攻し、卒業後は住友林業株式会社の木材流通部門に勤務。結婚・出産を機に樹木医を目指し、都内の樹木医専門会社に転職。2020年、林業出身の森広志さんとHARDWOOD株式会社を設立、取締役に就任。都市の樹木の診断や治療、民間緑地の管理のほか、大手企業の森林活動の支援や、地方行政の地域林政アドバイザーなども務める。2022年、茨城県森林審議会委員に就任。現在、12歳、10歳、8歳の3児の母。

取材・文／脇ゆかり（エスクリプト） 写真／竹見脩吾

「木を治療することで花付きがよくなったり、お客様が喜んでくれることが何よりうれしく感じます」

小さな幸せの積み重ねが、持続可能な社会をつくる大きな力となる。

「木を治療すること、それが発する違和感を捉え、次世代につなげていく。人々がより豊かな人生を送るために、樹木医としてできることがもつとあるはず——そんな信念を胸に、今後は医療やアート、AIなど異業種や新技術とのコラボレーションも積極的に進めていきたいと意気込む。目の前に立ち塞がる課題に挑むには、業界を超えた連携が必須だからだ。

「生涯、木に関わっていきたい」と話す片岡さん。

くらしいのサイズになるのか、どのような林相に遷移していくのかなど、経験からある程度予測することができます。つまり、木や森林の代弁者となり得る。そのような立場から、人と木、人と森林をつなぐ架け橋になればらと思っっているんです」

※7 日本の森林

日本の森林面積は約2502万haで、国土の67%を占める（2022年、林野庁）。先進国（OECD諸国）の中で森林面積率は第3位、日本は世界有数の森林大国といえる。

※6 林業と造園業

林業は森林で育成した樹木を伐採し、それを加工して製品をつくる。対して造園業は、公園や個人宅などの造園空間を設計、管理、施工する。

※5 特殊伐採

高木や巨木を根元から倒すのではなく、樹上に登ってロープなどを使い伐採すること。狭い敷地内で根元から伐採すると周囲の建物や送電線を傷つける恐れがあるため、この方法が採られる。

大崎市

宮城県

体を癒やし、心を潤す 鳴子温泉郷の温もり

～宮城県大崎市と鬼首地熱発電所を訪ねて～

深さ約100mの鳴子峡と大深沢橋。秋になると紅葉狩りを楽しむ観光客で賑わう。

Jパワー鬼首地熱発電所は、宮城県大崎市にある。鳴子火山群を有し、温泉資源が豊富なこの地域は鳴子温泉郷と呼ばれ、奥州三名湯の一つでもある。こけしの産地としても有名なこの地を旅した。

小説家 藤岡 陽子／写真家 竹本 りか

100mの断崖絶壁

大崎市の鳴子峡で紅葉狩り

大崎市にある鳴子峡レストハウスの展望台に立ち、胸いっぱい秋の空気を吸い込んだ。

目の前には色づいた樹々の葉に覆われた深さ100mの大峡谷が広がり、その見事な色彩に心を奪われる。

紅赤、緋色、茜色、金赤、朱色、金茶、橙色、伽羅色――。

日本には昔から色を表す言葉は数多くあるけれど、秋色の葉のすべてを識別することはできないだろう。色彩の濃淡は限りなく、光によっても見え方を変え、そして明日はまた少し違う風合いになっている。

秋から冬へ。季節の移ろいを感じさせるのもまた、紅葉の役割なのかもしれない。

彩られた鳴子峡に架かるアーチ型の大深沢橋は遊歩道につながっていて、およそ2.6kmにわたる大峡谷を散策できるという。

国内有数の温泉地
鳴子温泉郷を歩く

紅葉の名所として知られるこの地域は、国内有数の温泉地でもある。鳴子温泉、鬼首温泉、東鳴子温泉、川渡温泉、中山平温泉を合わせて鳴子温泉郷と呼び、奥州三名湯の一つとして全国に名を馳せる。大崎市にはどうしてこんなにたくさん温泉があるのだろうか。

町を歩きながらふと、そんな疑問が頭に浮かんできた。

調べてみると、この地域には鳴子火山群が広がっていて、地下数kmから十数km辺りに1000℃を超える高温のマグマ溜まりがあるという。マグマ溜まりによって温められた地下水が源泉となり、温泉に使われている。

また、温められた地下水が地表に近い場所にある場合、断層などで生じた割れ目から自噴することもあるらしい。それを間欠泉というのだが、鬼首温泉にある「鬼首



藤岡 陽子 ふじおか ようこ
報知新聞社に勤務した後、タンザニアに留学。帰国後、看護師資格を取得。2009年、『いつまでも白い羽根』で小説家に。2024年、『リラの花咲くけものみち』で吉川英治文学新人賞受賞。京都在住。最新刊は『森にあかりが灯るとき』。



岩出山伊達家の隠居所として造営された旧有備館および庭園。1850年代には学問所として使用された。



噴火によってできた漏沼（かたぬま）。
強酸性のカルデラ湖。



約10分間隔で高さ15mの温水を噴出する間欠泉、弁天。

1 地獄谷遊歩道にある「紫地獄」。2 地獄谷遊歩道でつくられていた温泉卵。3 岩出山公民館の大森翔太さん（左）に旧有備館および庭園の歴史を教えていただく。4 旧有備館の部屋から眺める回遊式池泉庭園。5 岩出山城の跡地に立つ伊達政宗公の像。6 松尾芭蕉が通つたと伝えられる尿前（しとまえ）の関。7 尿前の関跡に立つ松尾芭蕉の銅像。8 明治天皇に仕えた馬「金華山号」が祀られる荒雄川神社。

「いや、ほんとどこかにいなかったようですよ。京都にいたり、朝鮮出兵していたりで」
大森さんはそう言って微笑むが、岩出山と伊達家の縁は永く続く。「旧有備館は、1677年に岩出山伊達家第2代当主の伊達宗敏が建てたものです。その時は伊達家の隠居所だったようですが、幕末の1850年頃から学問所として使ったと言われています」
いま残っている建物は、儒学の口頭試問の場であった御改所（主

ね？」
「じゃあ、岩出山は伊達政宗公が壮年期を過ごした場所なんですか？」
「伊達家は初代仙台藩主の伊達政宗公の時代に、本拠地を米沢から岩出山に移していたんです」
1590年に豊臣秀吉が断行し

た領地の配置替えによって、当時24歳だった政宗公は1591年から仙台に移るまでの約12年間、岩出山を拠点にしていたと大森さんが教えてくださる。
「伊達家は初代仙台藩主の伊達政宗公の時代に、本拠地を米沢から岩出山に移していたんです」
1590年に豊臣秀吉が断行し

山公民館の職員である大森翔太さん。約4200坪もの敷地を優雅に歩きながら、岩出山と伊達家のつながりを教えていただいた。
「伊達家は初代仙台藩主の伊達政宗公の時代に、本拠地を米沢から岩出山に移していたんです」
1590年に豊臣秀吉が断行し

岩出山地区に伊達家ゆかりの史跡「旧有備館および庭園」があると聞き、足を向けた。
出迎えてくださったのは、岩出山公民館の職員である大森翔太さん。約4200坪もの敷地を優雅に歩きながら、岩出山と伊達家のつながりを教えていただいた。
「伊達家は初代仙台藩主の伊達政宗公の時代に、本拠地を米沢から岩出山に移していたんです」
1590年に豊臣秀吉が断行し

かんけつ泉」という施設を訪れ、温水の自噴をこの目で見てきた。
施設内には弁天、雲竜、二つの間欠泉があり、一定の間隔で温水を噴き上げていた。
弁天はおよそ15m、雲竜は4〜5mくらい温水を噴出するのだが、初めて見る光景に、地球のエネルギーを感じた。
私が立っているこの下に、マグマ溜まりがあるのか……。
火山国日本で暮らしながら、これまで地学に触れる機会が少なかったので、新鮮な感覚だった。



8



7



6



5



4



3



2



1



2



3



1



5



6



4

1 大崎市宮鳴子放牧場では畜産農家から預かった牛を育成している。2 山麓でのんびりと放牧される牛たち。3 鳴子放牧場を通る道路。道の先には禿岳が見える。4 1876年創業のこけし製造元「岡崎斉の店」の4代目・岡崎斉さん（左）と妻の律子さん。5 中学を卒業して家業に入った岡崎さん。祖父、父から受け継いだ技術で、誰が見ても岡崎家のものだと言われるこけしをつくっている。6 つくり手によってこけしの顔はいろいろで、律子さんが仰るには「うちのこけしは、お父さんに似て優しい顔をしているんです」。

鳴子の伝統工芸品
こけしと歩む人生

鳴子温泉近辺を歩いていると、いろいろな場所でこけしに出合う。道路沿いに立っていたり、公衆電話ボックスの上に頭が載っていたり。

なぜこんなにこけしが？

鳴子温泉に1876年創業のこけし店があるというので、鳴子こけしの歴史を知るために訪ねて行った。

「風のない日は御改所が池に逆さまに映り、とても美しいんですよ。その様子を、儒学者の佐久間洞巖が対影楼と名付けています」

庭園の池に入ってくる水はすぐ近くを流れる内川のもので、政宗公が整備したと伝えられる。

旧有備館に別れを告げたその足で裏手にある岩出山に登ると、城の跡地に伊達政宗公の銅像がそびえ立っていた。



禿岳（かむろだけ）の麓に広がるスキ野原。秋になると黄金色の風景が楽しめる。

こけしのことを教えてくださったのは、「岡崎斉の店」の4代目となる岡崎斉一さん。現在75歳で、中学を卒業してから約60年間、こけしづくり一筋の職人さんだ。

「こけしづくりは、この地域で木製のお椀やお盆を挽いていた木地師たちが子どもの玩具として手がけたことから始まりました。湯治にきた客が、子どものお土産に買っていったんですよ」

子どもの玩具としてつくられたこけしは、1940年頃になると大人たちの鑑賞、収集用として需要が高まった。その後1960年代の高度成長期に入ると多くの観光客が鳴子温泉を訪れ、土産として購入していった。当時は午前7時半から午後11時まで店を開けていた、と斉一さんが目を細める。

だが時代の流れは変わっていく。「平成の初め頃からこけしの売れ行きが下がってきたんです。そこにコロナ禍がきて……」

そう話してくださるのは、妻の律子さんだ。

「なんとかしようと思って」

逆境を打破するため、律子さんはこけしグッズの販売に踏み切った。

「岡崎斉の店」のこけしのイラストが入ったクリップや葉、便箋、孫の手、エコバッグなどを販売して売り上げを伸ばし、家業を守り抜いた。斉一さんが描くこけしの顔は世界に一つしかなく、その愛らしさはグッズとなって多くの人の手に届いている。

斉一さんがこけしの顔に絵を付けるのは夜8時から11時頃だという。静かな時間に心を鎮めて眉、目、鼻を描いていく。

「父や祖父から受け継いだ岡崎店の顔があるんです。うちのこけしは優しい顔をしてるんですよ」

いい時期も、苦しい時期もあった斉一さんの75年。それでも「こけしを通して多くの人に会えてきたことがありがたいです」と満足げに頷く斉一さんと向き合っていると、一つのことを続ける覚悟と喜びの両方が伝わってきた。

秋の景色が日々変わっていくように、今日と同じ明日はこない。それでも「明日はきっといいことがある」と信じて生きていけたら、人生は幸せだと思う。

鳴子温泉郷に心と体を温められ、明日に向かう勇気をもたらした。



- 1 岩出山城址・旧有備館および庭園
- 2 岡崎斉の店
- 3 湯沼
- 4 尿前の関
- 5 鳴子峡
- 6 荒雄川神社
- 7 鬼首地獄谷遊歩道
- 8 鬼首かんけつ泉
- 9 すずき野原・大崎市営鳴子放牧場
- 10 鬼首地熱発電所

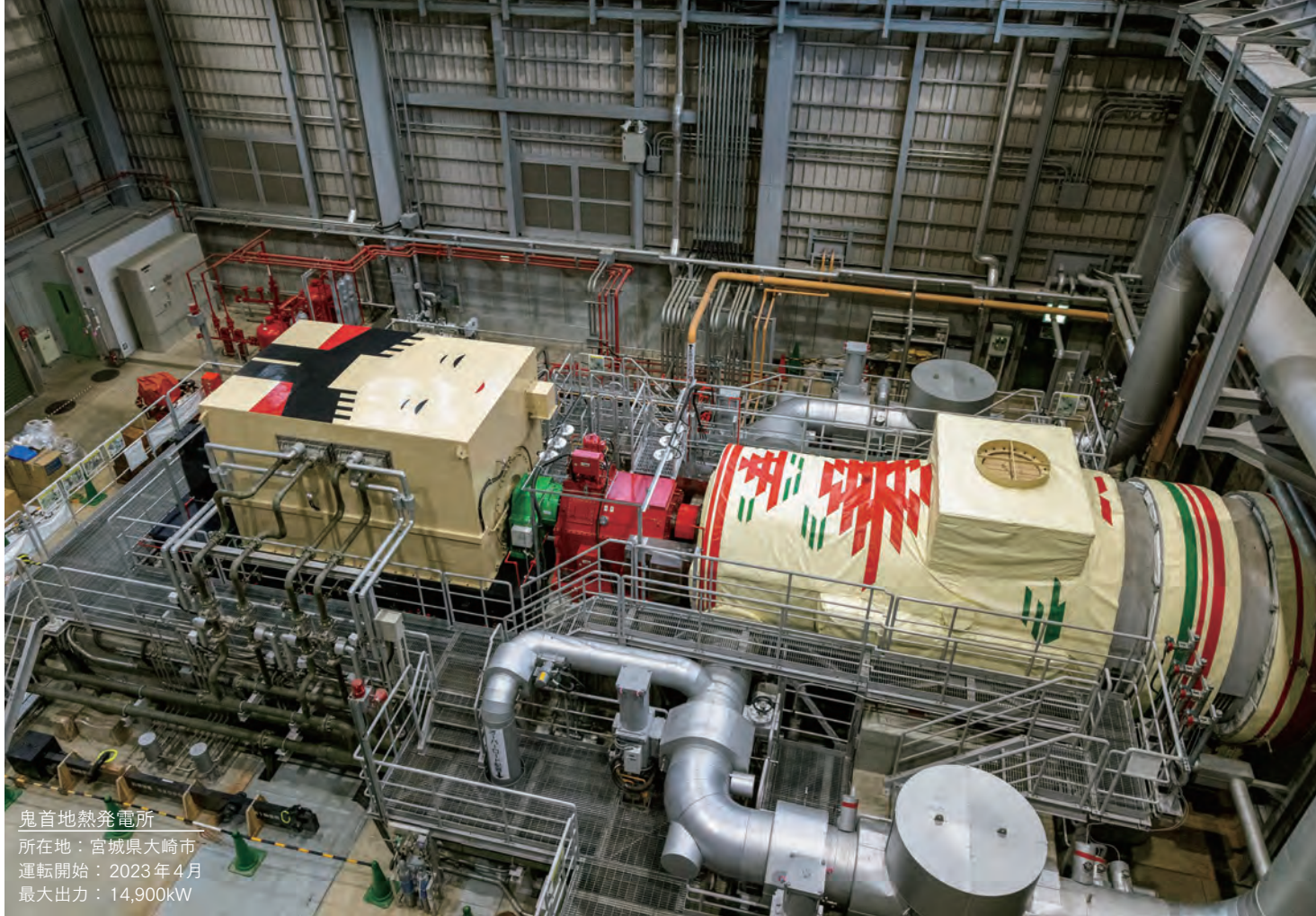
鬼首地熱発電所および主な取材先・撮影地。



熱水と蒸気を分離する気水分離器。



中富仁所長（右）と筆者。



鬼首地熱発電所
所在地：宮城県大崎市
運転開始：2023年4月
最大出力：14,900kW

伝統工芸品「鳴子こけし」のデザインが可愛い発電機（顔）とタービン（胴体）。

安全性を高めて 2023年に再稼働

大崎市にある鬼首地熱発電所を訪れ、中富仁所長に基礎的なことから説明していただいた。

「地熱発電は地下にある高温高压の蒸気を取り出し、タービンを回転させて発電するという仕組みになっています。蒸気でタービンを回転させるのは、火力発電と同じなんですよ」

鬼首地熱発電所の場合、深さ約1500m付近に地熱貯留層があり、そこに高温高压の蒸気や熱水が溜まっている。それらを生産井（せいさんせい）と呼ばれるパイプで取り出し、蒸気だけ発電に用いる。発電に使われなかった熱水と、使用後の蒸気は還元井（かんげんせい）と呼ばれるパイプで再び地下に戻す。

こちらの発電所が運転を開始したのは1975年のこと。2017年にいったん稼働を停止し、2019年から設備更新工事を始め、再稼働したのは2023年4月。見学した新設備は、5本ある生産井を1か所に集約し、従来の設備に比べ安全性が高められていた。

中富さんに地熱発電のメリットを尋ねると、

「火力発電所に比べ二酸化炭素の排出量が少ないこと、ほかの再生可能エネルギー、例えば太陽光や風力などと異なり、天候に左右されないことですね。あと純国産のエネルギーなので、海外から燃料が入ってこないなどのリスクに備えられます」

と返ってくる。ただ、自然相手なので危険があることを忘れてはいけない、と中富さんは語る。

現在、敷地内の巡視点検に使われている四足歩行ロボットを紹介してもらった。名前は「おにっぴー」で、地元の小学1年生が名付けてくれたそう。本物の犬のような「おにっぴー」の愛らしく軽やかな動きに、最後は笑い声に包まれる見学となった。

1 鳴子事務所の外観。2 4階建ての発電所の建物と冷却塔から立ち上る蒸気。3 設備更新工事によって集約された5本の生産井。4 地下からくみ上げた蒸気と熱水を分離する気水分離器。5 冷却塔のフラッシュタンクからは常に蒸気が出ている。6 タービンを回した後の水蒸気を冷却する復水器。7 気水分離器で分離された熱水を再び地中に戻す還元井。8 「おにっぴー」は遠隔で操作でき、危険な場所にも行ってくれる。



8



7



6



5



4



3



2



1



1 ボルダーコム蓄電所に設置された蓄電池設備。 2 Genex 社との打ち合わせ。左中央が北村さん。 3 キッドストン太陽光発電所を上空から撮影。 4 キッドストン揚水発電所の空撮写真。写真奥にキッドストン太陽光発電所が見える。 5 揚水発電所の建設現場を視察するメンバーと北村さん（左端）。 6 子会社化完了直後のシドニー湾で。右端が北村さん。 7 J-POWER Australia 社での懇親会に参加する北村さん（写真左手前）。

トする技術支援契約を結び、エンジニア1名を Genex 社のブリスベン事務所に常駐させてきた。「そのような中、2022年に他社による Genex 社買収の話があり、それをきっかけとして、同国で再生エネルギーを継続するならば、その足がかりとして Genex 社を子会社化した方がよいのではということになりました」

2023年の夏から、北村さんをはじめとした豪州タスク全体で買収プロジェクトを推進。翌年7月に全株式買収が完了した。

「一番大変だったのは、Genex 社の株主たちの承認を得ることで、75%以上の承認を得た時は達成感を感じました」と北村さんはその喜びを語る。

現地でも注目される揚水発電と Genex 社

Genex 社が開発中のキッドストン揚水発電プロジェクトは、閉鎖された金鉱山を活用するという世界初の試み。揚水発電は、2つのダム湖の間で水のやり取りを行うことで余剰電力の吸収と不足電力の供給を担う「ウォーターバッテリー」として機能し、発電容量が不安定な再生エネルギーの欠点を補うものとして、世界的にも注目されている。

「Genex 社は電力会社としては大きくはありませんが、揚水発電所を持つ唯一の再生エネルギーとしてオーストラリア国内でも注目されています。ここで学んだことを活かして、Jパワーの BLUE MISSION 2050 の目標である『2050年カーボンニュートラル』達成に貢献していきたいと思っています」

オーストラリアの再エネ促進に貢献

Australia

Genex Power Limited



工事中のキッドストン揚水発電所の地下。

再生エネルギー企業 Genex 社を子会社化

Jパワーは1981年、オーストラリアに現地法人 J-POWER Australia Pty. Ltd. を設立。同社を通じて同国内の炭鉱へ投資を行うことで、日本への安定的な石炭供給を担ってきた。一方、地球温暖化が顕在化する中、同国でも再生可能エネルギー（以下、再生エネ）の大量導入が進んでいることを受け、Jパワーは2020年に再生エネ発電事業を担う現地法人 J-Generation Australia 社（以下、JPGA 社）を設立。2021年には同国の再生エネ企業 Genex Power Limited（以下、Genex 社）の株式の一部を取得し、Genex 社の太陽光や風力、揚水発電などのプロジェクトに参画してきたが、2024年7月、Genex 社の全株式を取得し、完全子会社化した。

子会社化の経緯について Genex 社の M & A を担当した国際営業部再生可能エネルギー開発室豪州タスクの北村由里さんにお話を聞いた。

「2024年7月から JPGA 社に出向し、現在は Genex 社統合の最終段階にある PM（Post Merger Integration）を担当しています。Jパワーは、2018年頃から世界各地で揚水発電所の建設予定地を探していましたが、その白羽の矢を立てたのが揚水発電所建設を計画していた Genex 社でした」

オーストラリアでは30年以上、揚水発電所がつけられていなかったため、Jパワーの知見が活かせるとの判断から、2021年に Genex 社の普通株式10%を取得。揚水発電所の建設・運営をサポート

電ケーブルには幾重にも工夫を凝らしてあるため、日常の保守点検にも慎重を期す必要があるのです」

そう話す入社4年目の鈴木武望さんが立つ現場（右写真）は、与島にある橋脚付近で地中線から橋梁へ垂直にケーブルを引き上げる重要な地点。このケーブルは電気が通る導体で、絶縁紙などで覆った複雑な構造で、特にデリケートなため、日常的に保

「運用開始30周年の本四連系線に 息づく送電技術を未来に伝える。」

■ 電源開発送変電ネットワーク株式会社 岡山送変電事業所 送電グループ 鈴木 武望 たくみ

守点検を行っている。

「学生時代から送電の仕事に就いたかった自分にとって、今の仕事はともやがたいと感じます。手探りでコツを探していく日々ですが現場の先輩方が親身に導いてくださっています」

先人の築いた技術や精神を受け継ぎ、さらに磨きをかけて未来へ伝えたい。熱いその思いに満ちている。

取材・文／内田 孝 写真／斎藤 泉

本州・四国間を50万Vの送電線で結ぶ本四連系線が、2024年夏、運用開始から30周年を迎えた。広域で電力を融通する地域間連系線は災害に備えた電力インフラの強靱化や、再生可能エネルギーの利用拡大を見据え、その重要性を増している。

本四連系線は岡山県と香川県の両県をつなぐ瀬戸大橋に添架された橋梁区間と、途中の島嶼区間、そして

鉄塔を介した地上区間で構成される。橋梁区間は橋上の道路・鉄道に沿ってケーブルが敷かれ、島嶼区間はケーブルを地中に潜らせるなど、様々な技術が集められた設備だ。

「例えば橋梁部分は気温変化による熱伸縮や自動車や列車の走行により、橋の両端で最大1・5mの伸縮と、水平・垂直方向に約1度のたわみが想定されます。それに対応しうる送



POWER
PEOPLE

J-POWER 送変電 本四連系線

◀ 岡山県倉敷市 ▶



1 送電ケーブルの両端（岡山県倉敷市＝写真と、香川県坂出市）には、架空線と地中区間のケーブルを接続するケーブルヘッドがある。 2 地中区間では洞道（どうどう）を歩いてケーブルなどの状態を点検。 3 橋梁区間は道路・鉄道に沿ってケーブルが敷かれており、巡視点検なども高所作業になる。 4 四国側の番の州調整所でケーブル絶縁油圧状況などをチェック。 5 全長約127kmに及ぶ本四連系線の一部は瀬戸大橋にケーブルが添架されている。

profile

やまざき まゆみ

1970年、新潟県生まれ。大学卒業後、2年半のOL生活を経験、その後フリーライターへ転身。精力的に国内外の温泉取材をこなす。2008年、国土交通省・VISIT JAPAN 大使に。観光庁や地方自治体の観光政策会議に有識者として多数歴任。パリアフリー温泉を積極的に紹介するなどの活動にも注力。跡見学園女子大学兼任講師（観光温泉学・観光取材学）。主な著書に『宿帳が語る昭和100年 温泉で素顔を見せたあの人』、『温泉ごはん 旅はおいしい!』、『行ってみよう!親孝行温泉』など多数。

P.42 右下／近著では、その温泉でしか味わえない湯や食などを紹介。旅の友にベストな一冊。

上右／「学生は皆、真面目に学んでいます。日本の温泉文化を知り、これからの観光の現場で活躍してほしいと願っています」と山崎さん。

上中／障がい者だった妹（故人）を温泉に連れて行きたかったという思いから、ユニバーサルデザインの温泉を積極的に紹介。松之山温泉「ひなの宿ちとせ」（新潟県）は、全館畳敷きで床暖房。利用しやすいユニバーサルデザインの客室がある。

上左／バブアニューギニア・ラバウルの温泉。現地の人々に見守られながら（!?）入浴。温泉入浴は日本から伝わったといわれる。

取材・文／ひだい ますみ

写真／吉田 敬



MAYUMI YAMAZAKI

国内外に温泉文化を情報発信

温泉エッセイスト

山崎 まゆみ

日本の温泉文化は、世界に誇る素晴らしい財産。

山崎まゆみさんは、日本各地の温泉をはじめ、

世界 33 か国の温泉を取材し、そう確信した。

山崎さんが絶賛する「温泉文化」とは？ 残すべき伝統とは？

長年、温泉文化を追究してきた山崎さんの思いに迫る。

温泉エッセイストの山崎まゆみさん。25年以上にわたり、国内外の温泉取材を続けている。講演や取材でよく聞かれる「おすすめ温泉は？」という問いには、肌や体質、その時のメンタルなど、自分自身にジャストフィットする「マイ温泉」が一番と答えているが、印象的な温泉としては、福島県奥会津の金山町の温泉を挙げる。

「この地域は炭酸泉の宝庫。お湯はぬるめですが、炭酸ガスの効果でとても温まります」

海外の温泉なら、ハプスブルク家の保養地だったバート・イシュル（オーストリア）。ハプスブルク家最後の皇妃エリザベートが美しさを磨いたという温泉である。

現在、山崎さんは大学で観光温泉学を教える一方、日本の温泉文化をユネスコの無形文化遺産に登録する活動にも注力している。最速で2028年の登録を目指し、署名活動を進めている。

「日本では、お湯でリラックスするだけでなく、温泉街の観光や旅

館でのおもてなし、温泉饅頭といったお土産など、ユニークな付加価値があります。このような文化的な昇華は、世界に類を見ません。こうした日本オリジナルの温泉文化を世界に向けて情報発信していきたいと思っています」

蒸気熱を利用した調理法の地獄蒸しで有名な鉄輪温泉（大分県）など、大地の恵みを活用する日本。山崎さんは、SDGsを意識した活動はもちろん、次世代を担う子どもたちにも何かアプローチできないかと考えている。

例えば、共同浴場で地域の大人が子どもたちに社会のマナーや生きる術を教え、子どもたちを見守る文化。そんな「浴育」の視点も含め、温泉文化を盛り立てる山崎さんの今後の活動に期待したい。



伝統の樺細工技術を 未来に伝える

秋田県仙北市角館。^{かくのだて}

江戸時代の武家屋敷が今も残るこの町の名産品が樺細工だ。^{かばざいく}

山桜の樹皮の風合いを活かした樺細工の伝統を未来に残そうと努力する人々がいる。

創業140年を超える老舗製造元、株式会社八柳^{やつやなぎ}を訪ねた。



茶筒は樺細工を代表するアイテム。桜の樹皮は、防湿性、抗菌性に優れるため、茶葉の保管に適している。

江戸時代から続く 伝統工芸技術を継承

樺細工は、秋田県角館に江戸時代から伝わる伝統工芸品だ。樺とは山桜のことで、万葉集などでは「かには（迦仁波）」と書かれていたが、後に「かば（樺）」に転化したものと言われている。磨き上げた樺を貼った茶筒などがある名で、温かみを感じる見た目が特徴の、古くから親しまれている日本を代表する伝統工芸品といってもよい。この伝統技法を現在も受け継ぎ、製造販売を続けている株式会社八柳の代表取締役八柳浩太郎さんにお話を聞いた。

「樺細工は、江戸時代中期に佐竹北家の藤村彦六という武士が、秋田県北部の阿仁^{あに}地方から角館に伝えたのが始まりで、その後下級武士の手内職として広まったと言われていました。当時は薬などを入れる薬籠などをつくっていました」

その後、明治期になると職を失った武士たちが本職として樺細工をつくるようになり、当地の地場産業となった。全国的に知られるようになったのは、大正から昭和期にかけて問屋制度によって全国への流通ができたことと、「日本各地の民芸品の中にこそ美がある」として、職人たちによる素朴な工芸品を礼賛する「民藝運動」を展開した柳宗悦^{やなぎむねよし}などが樺細工を優れた民芸品として紹介したことによるという。昭和の初期には茶筒や胴乱（煙草入れ）、文箱などの樺細工が全国に知られるようになった。

八柳は、1876年（明治9年）創業で、浩太郎さんで7代目、140年を超える歴史を持つ。

「創業当時は、仕出し屋や下駄屋などもやっていたようですが、3代目の時に樺細工専門になり、下駄屋だった経験を活かして、樺細工を施した樺下駄を製作し、当社だけのオリジナル製品として好評を得ました。昭和初期には秋田市の百貨店に売りに行っていたようです」

この樺下駄がよく売れ、昭和20年代以降の高度成長期には年間1万足以上も出荷。現在でも販売している八柳のロングセラー商品となっている。

樹皮の味わいを活かした 削りと貼りの繊細な作業

樺細工は、大きく「型もの」、「木地もの」、「たたみもの」の3つに分類される。

型ものは、木型に合わせて芯になる材料をつくり、その上に桜皮を貼り付けて、筒状のものをつくる技法で、古くは胴乱や印籠、現

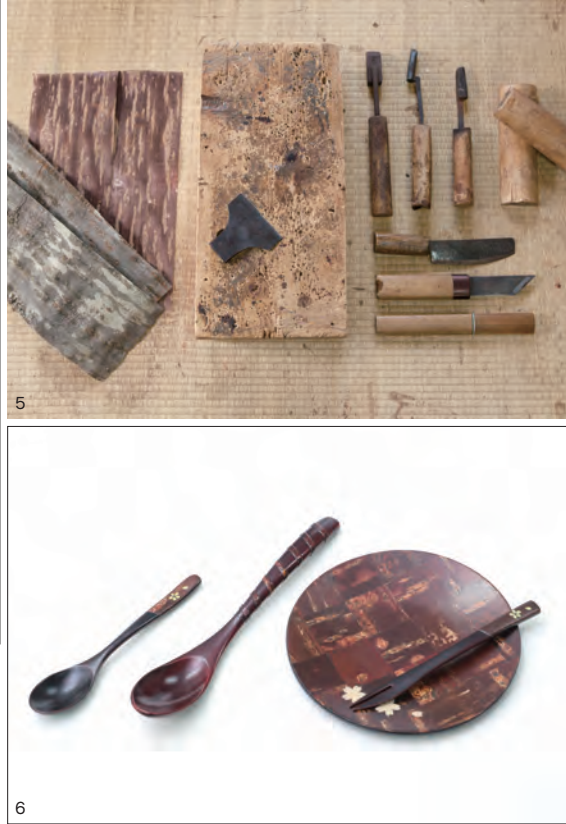


株式会社八柳
代表取締役
八柳浩太郎さん

右／日本的な雰囲気をおもむくインバウンドにも人気で、隣県の岩手県の南部鉄瓶と合わせて購入する外国人も多い。
左上／樺下駄は八柳発祥のアイテムで、高度成長期には年間1万足以上を出荷。
左下／山桜の樹皮は12種類ほどあり、それらの風合いを活かした商品。



4. 熱したコテを山桜の樹皮に押し当てながら茶筒本体に貼っていく。
5. 樺細工職人が使用する道具（コテ、小刀、包丁など）。
6. 箸や箸置き、カトラリーなどの生活雑貨も製造している。
7. 八柳の本社外観。



1. 樺細工で使用する山桜の樹皮は12種類ほどある。写真上が自然な風合いを活かして使用する霜降皮、下が樺細工で一般的な無地皮。
2. 樺はぎ作業の様子。山桜が生存できるよう半分以上の樹皮を残して採取する。
3. 1～2年程度保存し、乾燥させた樹皮を使用する。

代では茶筒がつくられている。木地ものは、下地に木材を使ったものに桜皮を貼ったものの総称で、文箱や硯箱、宝石箱など箱形のものの。そのほか、テーブルや茶箆など木地ものとされる。たみものは、何枚も貼り重ねて数cmの厚さを出した桜皮を作品に加工するもので、ブローチやペンダントなどの装飾品がつけられている。そのつくり方は「型もの」を例に取ると次のようになる。

- ① 桜皮を山桜から採取。
- ② 桜皮を1～2年程度乾燥させる。
- ③ 桜皮を幅広の包丁で削り、0・3mmほどの厚さにする（樺削り）。職人が削ると光沢が出る。
- ④ 桜皮にニカワ（接着剤）を塗って乾燥させる。
- ⑤ 型の上に経木（きようぎ）などを載せ、200℃程度に温めたコテを押し当てて成形する。
- ⑥ 成形した経木にニカワを塗り、温めたコテを押し当てながら桜皮を貼り付ける。ニカワとコテの温度が絶妙な職人技だ。
- ⑦ 部品を接着し組み上げる。
- ⑧ 研磨や塗装などの仕上げ作業。

主となる樺の磨きと貼り付けは、山桜の樹皮を約0・3mmの厚さまで削り、独特の光沢と味わいを醸し出し、それを木製の胴体にしっかりと貼り付ける繊細な作業だ。こうした樺細工の製造工程は、多くの伝統

てきた。しかし、近年は一般家庭で茶葉からお茶を淹れて飲む人が減り、茶筒の国内需要は減っているという。こうしたライフスタイルの変化により、樺細工も売上げや担い手が減り、市場や環境が大きく変化していると浩太郎さんは語る。

「10年前は角館で5社あった製造元が今は3社になりました。また、山の仕事をする人が減ったので、山桜から樹皮を採取する『樺はぎ職人』がいなくなり、原材料である樺の入手が困難になりました」

こうした状況を改善するため、八柳では自社で樺の採取を行っている。

「樺はぎは、梅雨明けからの2カ月間しか行うことができます。この時期は、樹皮に水分が含まれ、樹皮を容易にきれいに剥がすことができますが、それ以外の時期は木が乾燥して樹皮を剥がすことが難しくなるからです。この周辺では8～9月がその時期になります。春のうちに、山桜がどこにあるかを確認しておき、山の所有者に許可を取って、8～9月に社員総出で樺はぎをしています」

山桜は樹皮を半分以上残せば枯れることなく、生き続けることができ、新しい樹皮を再生させる。山仕事をする人が減少し、山が荒廃、自然の山桜が減っているため、八柳では休耕地などを活用して山桜を植樹する活動も行っている。

さらに、職人自体のなり手も減っているため、職人を自社で育成する試みも始めている。だが、八柳にとってもっとも大事なことは、「その時代その時代のライフスタイルに合わ

せたものづくりをすることだと思います」と浩太郎さんは語る。

「下駄に樺細工を施したのも八柳のオリジナルでしたし、プラスチックなどの新しい素材に樺を貼ることや、スマートフォンケースを開発することなど、常に新しいことに挑戦してきたのが八柳の歴史です。そうした気風は商品開発だけでなく、戦前からすでに海外への販路を開拓していたことから感じています」

伝統の中で新しい試みに挑戦してきたのが八柳の歴史であり、今も毎年5～10アイテムほどの新製品を発表している。また、秋田県でデザインブランドを立ち上げた合同会社casane tsunugu（カサネツムグ）や外部デザイナーとのコラボにも積極的で、東京都内の百貨店にも毎年出店するなど来店者のニーズを探ることに余念がない。インバウンドによる購入も売上げの約2割を超えた。

「先代が言っていたことですが、『伝統は絶えざる革新と絶えざる努力によって守られる』のだと思います」

時代時代に合ったものづくりをしながら、新製品を市場に提案していくことが伝統を守ることにつながっていく。こうした努力によって八柳の伝統はこれからも継承されていくことだろう。

株式会社八柳
1876年（明治9年）創業の樺細工の製造販売元。樺細工を代表する茶筒をはじめ、茶杓などの茶道具やテーブルウェア、文房具、インテリア雑貨、アクセサリーまで商品は多岐にわたる。樺細工を施した下駄は同社を代表するロングセラー商品。
<https://www.yatuyanagi.net/>



スマートフォンケース（右）と名刺入れ（左）などの現代の生活にフィットしたアイテムも開発している。

工芸品がそうであるように、分業制で行われてきた。山桜の樹皮を採取する（樺はぎ）職人、樺削りをして樺を貼り付ける職人、仕上げを担当する職人、そしてアイテムを企画し販売する製造元（問屋）。

八柳は、主に商品を企画する製造元にあたる。1点ものの高級品は伝統工芸士と連携して製造、普及品は自社内で製造するほか、20人ほどの外部の職人と連携して作業分担しながら製造している。

ライフスタイルの変化に合わせてつづ伝統を守る努力

樺細工は山桜の樹皮の特質から、防湿性や抗菌性があるとされ、古くは薬籠や胴乱、昭和以降は茶筒などが主な製品として生産される。

あしよる 足寄発電所の最大出力増加および長山発電所2号機の営業運転開始

2024年10月、J-POWERの足寄発電所（北海道足寄郡足寄町）では最大出力が40,000kWから42,300kWに増加し、また、長山発電所（高知県安芸郡北川村）では2号機のリパワリング工事（水車・発電機など主要設備の一括更新工事）が完了し、営業運転を開始しました。

足寄発電所は、水車発電機など主要設備を一括で更新するリパワリング工事を既に2023年3月に完了しており、リパワリング工事による出力増加分2,300kWについては、ノンファーム型接続※により送電する計画としていました。今般、「調整電源以外の電源も含め一定の順序で出力制御する再給電方式（一定の順序）」の接続ルールが適用開始となり、当該リパワリング工事による出力増加分2,300kWをノンファーム型接続することが可能となったため、同発電所の最大出力が増加しました。

長山発電所は、1960年の運転開始から60年以上が経過し、機器の高経年化が進んでいたことから、水車や発電機などの主要設備を一括で更新するリパワリング工事を行ってきました。今回のリパワリング工事では、最新の解析・設計技術を用いて水車ランナの羽根形状を改良し、2号機の発電出力を18,500kWから19,250kWに750kW増加させました。1号機についても2024年度中にリパワリング工事に着工する予定であり、1号機のリパワリング工事完了後の長山発電所全体の出力は37,000kWから38,500kWへ、1,500kW増加予定です。

J-POWERグループは、これまでの全国各地における水力発電所開発・運営の経験と実績を踏まえ、再生可能エネルギー事業の拡大に向けて取り組んでいます。

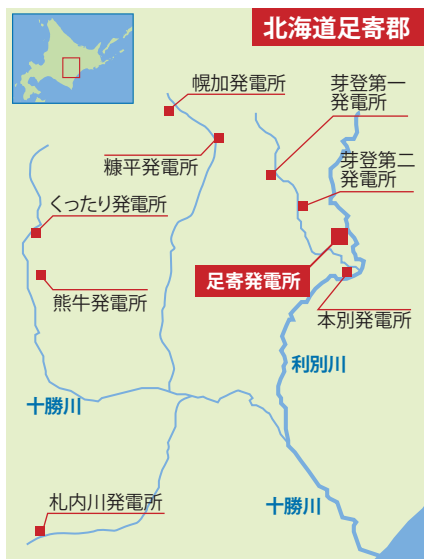
※ 電力系統の送変電設備は常に最大容量を使っているわけではなく、送変電設備の最大容量を超える場合は出力が抑制されます。送変電設備の容量が空いている時の空容量を活用し、増出力分を出力するのがノンファーム型接続です。足寄発電所は40,000kWの送変電設備容量は確保しているため、増出力分（2,300kW）のみノンファーム型接続となります。

足寄発電所

発電所概要	
所在地	北海道足寄郡足寄町
出力	40,000kW → 42,300kW
最大使用水量	毎秒56トン
ダム	活込ダム（堤長185m、高さ34m）
運転開始	1955年10月



足寄発電所（外観）



位置図

長山発電所

発電所概要（2号機リパワリング工事完了後）	
所在地	高知県安芸郡北川村
出力	37,750 kW （1号機と2号機の合計出力）
最大使用水量	毎秒40トン
ダム	平鍋ダム（堤長124m、高さ38m）
運転開始	1960年7月

リパワリング工事 主要スケジュール	
2023年 10月31日	2号機 リパワリング工事開始
2024年 10月28日	2号機 営業運転開始
2025年 1月	1号機 リパワリング工事開始（予定）
2025年 10月	1号機 営業運転開始（予定）



長山発電所（外観）



位置図



長山発電所2号機リパワリング工事の様子（水車ランナ吊込み）



こじま なお
東京都出身。2004年、角川短歌賞受賞。2007年、第一歌集『乱反射』により現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。2020年4月、第三歌集『展開図』刊行。居合道三段。

「音のソノリティ」を詠む

—— ぶくぶく茶 ——
（沖縄県那覇市）

歌人 小島 なお



識名園は琉球王家最大の別邸で美しい庭園が有名。2000年に首里城などとともに世界遺産に登録された。

写真：イメージマート

「音のソノリティ」第1049回放映「ぶくぶく茶」を観て詠んでいただいたものです。J-POWERグループは沖縄県で石川石炭火力発電所を運営しています。

※ 識名園では普段 ぶくぶく茶の喫茶などは行っておりません。

お茶を点てる音が静かな庭園に響く。300年以上前の王朝の人々もきつと同じ音に耳を傾けながら、風土に恵まれた琉球王国の繁栄をふかふかと味わっていたことだろう。

灰岩を通って湧き出た硬水を使うためだ。

白米を煮出した湯とジャスミン茶を混ぜて泡立て、その滑らかな泡を玄米を煎じた湯の上にのせて一緒に飲む。豊かな泡が立つのは、琉球石灰岩を通って湧き出た硬水を使うためだ。

お茶を点てる音が静かな庭園に響く。300年以上前の王朝の人々もきつと同じ音に耳を傾けながら、風土に恵まれた琉球王国の繁栄をふかふかと味わっていたことだろう。

底に大きな茶笥を振る。白く泡立った気泡が次第に小さくなり、滑らかになっていく。沖縄県那覇市にある世界遺産、識名園は沖縄を代表する庭園。今回のロケではここで琉球茶道ともいわれる「ぶくぶく茶」を点てていただいたという。琉球王朝で賓客をもてなす時に振る舞われていたお茶。直径約30cmの大きな木鉢と大型の茶笥で全員分のお茶を点てる。煎った白米を煮出した湯とジャスミン茶を混ぜて泡立て、その滑らかな泡を玄米を煎じた湯の上にのせて一緒に飲む。豊かな泡が立つのは、琉球石灰岩を通って湧き出た硬水を使うためだ。

世界でたった一つの音
音のソノリティ

J-POWER は、首都圏などで放送中のミニ枠テレビ番組「音のソノリティ〜世界でたった一つの音〜」を提供しています。「ソノリティ」とは、フランス語の音楽用語で「鳴り響き」の意味。日本の自然風景から、その場所できくことのできない音を紹介しています。

日本テレビ系列
毎週日曜日 20：54～など
BS 日テレ
毎週水曜日 22：27～（再放送）



着床式洋上風車基礎「フレキシブル・トリパイル」考案

J-POWERは、国立大学法人東京大学と共同で、日本の地形に適した新たな着床式洋上風車基礎「フレキシブル・トリパイル」を考案し、特許を取得しました。

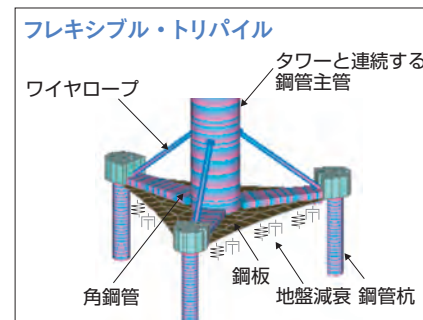
大規模導入が進められている着床式洋上風車には、欧州で実績のあるモノパイル式基礎※が多く用いられています。一方、日本海域で多く見られる地盤のように、比較的硬質な岩盤が浅く分布する場合には、効率良く岩盤を削孔することが困難なことからモノパイル式基礎を適用できず、従来技術であるジャケット式基礎を採用する必要があり、そのため建設コストに課題がありました。

本技術は、基礎の底版部に角鋼管や鋼板を用いて比較の変形しやすく柔軟な構造とすることで地盤からの免震効果を得られるため、岩盤が浅く分布する地点における施工性が良く、なおかつ地震による振動を低減するものです。また、従来技術に比べ、基礎に使用する部材を簡素化できるため、建設コストを低

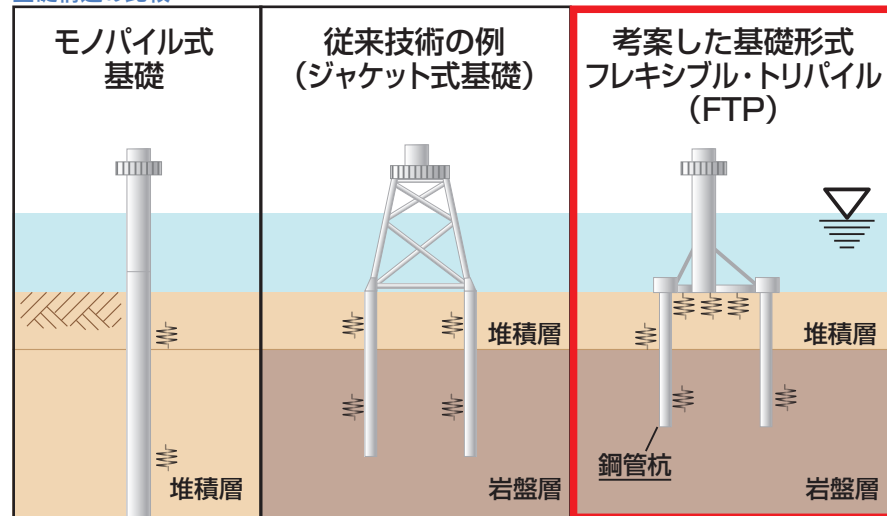
く抑えることが可能です。

J-POWERグループは、今後も、実海域での「フレキシブル・トリパイル」の実用化に向けて、鋭意研究を進めていきます。

※モノパイル式基礎とは、1本の大口径杭を地盤に打ち込み、風車を支える形式の基礎です。また、パイルとは、基礎工事の際に地中に打ち込む杭のことを指します。



基礎構造の比較



インドネシアの水力発電事業会社 PT Mulya Energi Lestari社へ出資

J-POWERは、インドネシアの水力発電事業会社であるPT Mulya Energi Lestari社（以下、MEL 社）による第三者割当増資を受け、同国初となる水力発電事業に出資参画しました。また同国では、2022年に商業運転を開始したボタン発電所に続く2件目の案件となります。

J-POWER は出資に際し株式会社SDG インパクトジャパンと共同で株式会社アイル・インドネシア（以下、持株会社）を日本に設立した上で、持株会社を通じて MEL 社の株式を 27.23% 取得しています（持株会社の MEL 社持分比率：28.375%）。

MEL社は2016年に設立された水力発電の開発・建設・運営を行う事業会社です。同社はスマトラ島において現時点で6案件（運開済1件、建設中1件、開発中4

件、MEL社持分出力：52.5MW）を保有し、今後は他地域や案件規模の拡大も視野に入れて開発を進めていく予定です。

インドネシアは2060年までのカーボンニュートラル達成を掲げる中、人口増加や経済成長に応じて電力需要が堅調に伸びており、再生可能エネルギーやトランジション電源等による発電事業の拡大が期待される市場です。MEL社の高い開発力とJ-POWERの技術力および



Sion発電所 内観

運転経験を活かして継続的に案件を開発し、再生可能エネルギーを拡大しつつ、同国の電力安定供給と環境負荷低減に取り組んでいます。



Sion発電所 堰および取水口（上）、Sion発電所 外観（下）

新TVCM「Jパワーくん～安定篇～」公開

J-POWERは新TVCM「Jパワーくん～安定篇～」の放映を2024年9月より開始しました。J-POWERグループの「人々の求めるエネルギーを不断に提供する」という企業としての姿勢をテーマに描いています。

これまで放映していたアニメシリーズから一転、新たな実写CMとして「Jパワーくん」シリーズを制作しました。ちょっと不思議な少年「Jパワーくん」がオリジナルソングを優しく歌い上げ、日常で様々な不安を抱える人々に寄り添う姿を描いています。また、「今と未来をよくするパワー」という新しいキャッチコピーを採用し、J-POWERグループが「今、エネルギーの安定供給のために様々な努力を続けていること」、そして「未来に向けて、カーボンニュートラルの実現のためにエネルギーの分野で

様々な挑戦を続けていること」という2つの意味を込めました。

この「Jパワーくん」シリーズは、トヨタ自動車の「こども店長」やサントリーBOSS「宇宙人ジョーンズ」シリーズなど、これまで2,000本以上ものCMを手掛けてきた福里 真一さんに、クリエイティ

ブディレクターを務めていただきました。「Jパワーくん」役は、スズキソリオのCMなどに出演されている岡坂 幸蔵くんに、「女子大生」役はフジテレビ「女神の教室～リーガル青春白書～」などに出演されている河村 花さんに演じていただきました。



TVCM放映情報

新TVCMはJ-POWERグループの提供番組「音のソノリティ～世界でたった一つの音～」(日本テレビ系列 毎週日曜日20:54～など)でご覧いただけるほか、J-POWER公式YouTubeでは、「Jパワーくん～安定篇～」の60秒のロングバージョンも公開しています。

30秒版



60秒版



読者プレゼント

本誌P.30の「Home of J-POWER」で取材した宮城県大崎市の鳴子温泉地ビール「鳴子の風」3本セットを抽選で3名様にプレゼントします。

応募方法

① 郵便番号 ②住所 ③氏名 ④生年月日および年齢※ ⑤電話番号 ⑥本誌の閲覧方法 (Web版または冊子版) ⑦本誌の印象的だったコーナーやご感想 ⑧ご希望のプレゼントを明記の上、2025年3月7日 (金) までに郵便はがき (当日消印有効) で下記住所「J-POWER『グローバルエッジ』編集室 読者プレゼント係」宛てに、または下記メールアドレス宛てにご応募ください。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。なお、個人情報は、プレゼントの発送のためにのみ使用させていただきます。

※アルコール飲料のため、明記をお願いしております。なお、20歳未満の方のご応募はご遠慮ください。



※ プレゼントの内容は、変更になる場合があります。ご了承ください。



2025年1月15日発行 (非売品)
発行:電源開発株式会社
〒104-8165 東京都中央区銀座6-15-1
URL: <https://www.jpowers.co.jp/> e-mail: globaledge@jpowers.co.jp
編集・発行人:広報室長 下田 総一郎



*本誌発行からWebサイトへの掲載までにタイムラグが生じる場合があります。